

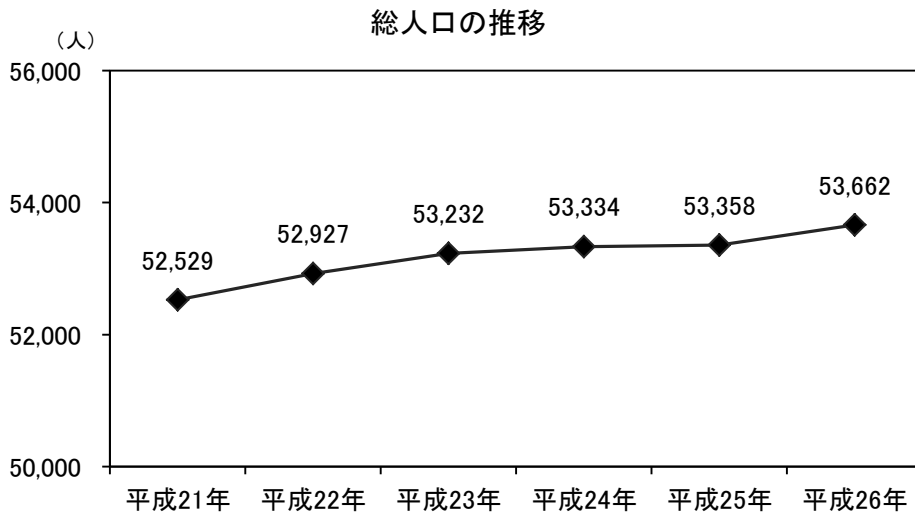
第2章 岩出市の現状

1 統計データからみる現状の整理

1) 人口と世帯の状況

(1) 総人口の推移

総人口をみると、年々増加傾向にあり、平成26年では53,662人となっています。

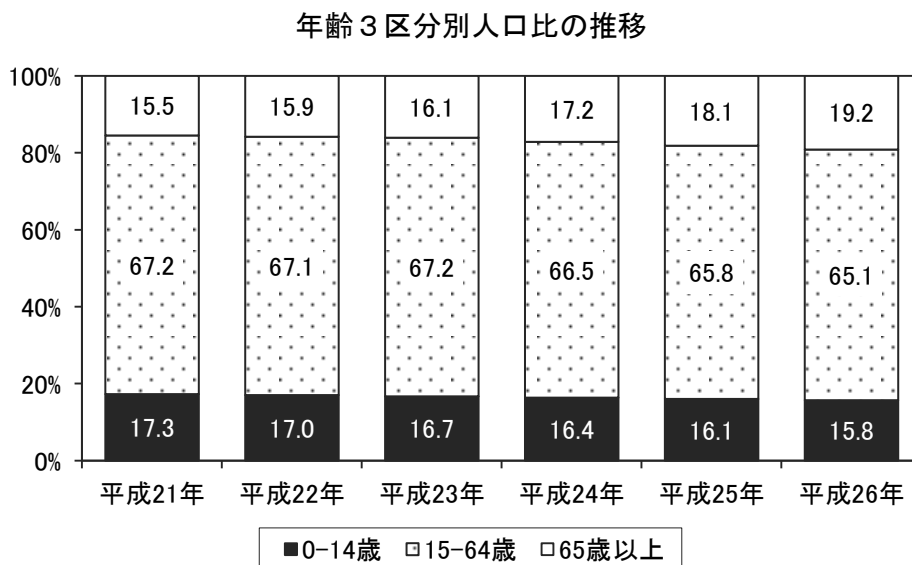


資料：住民基本台帳（各年9月末）

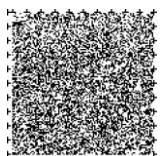
(2) 年齢3区分別人口構成比の推移

年齢3区分別人口構成比をみると、平成24年を境に65歳人口比が0～14歳人口比を上回り、平成26年では19.2%となっています。

65歳以上人口比は増加しており、0～14歳と15～64歳人口比はともに、減少しています。

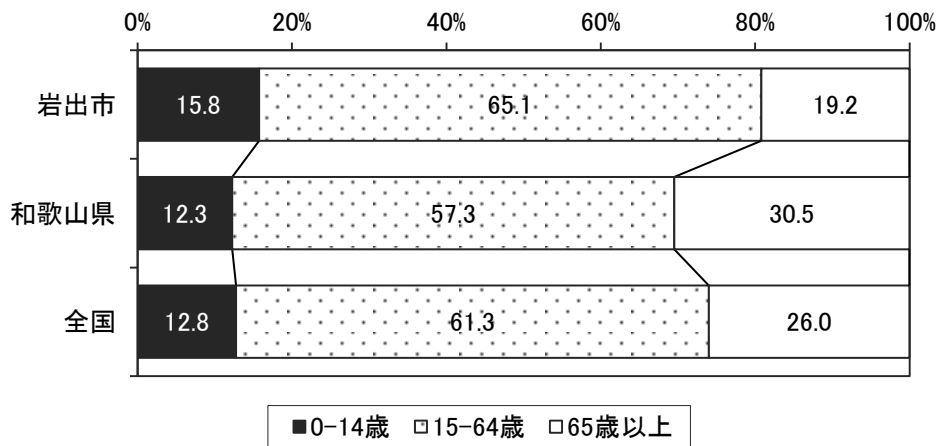


資料：住民基本台帳（各年9月末）



平成 22 年の年齢 3 区分別人口構成比を和歌山県、全国と比較すると、0～14 歳人口比と 15～64 歳人口比は和歌山県や全国を上回っているのに対し、65 歳以上人口比は下回っています。

年齢 3 区分別人口比（平成 26 年）（和歌山県、全国との比較）



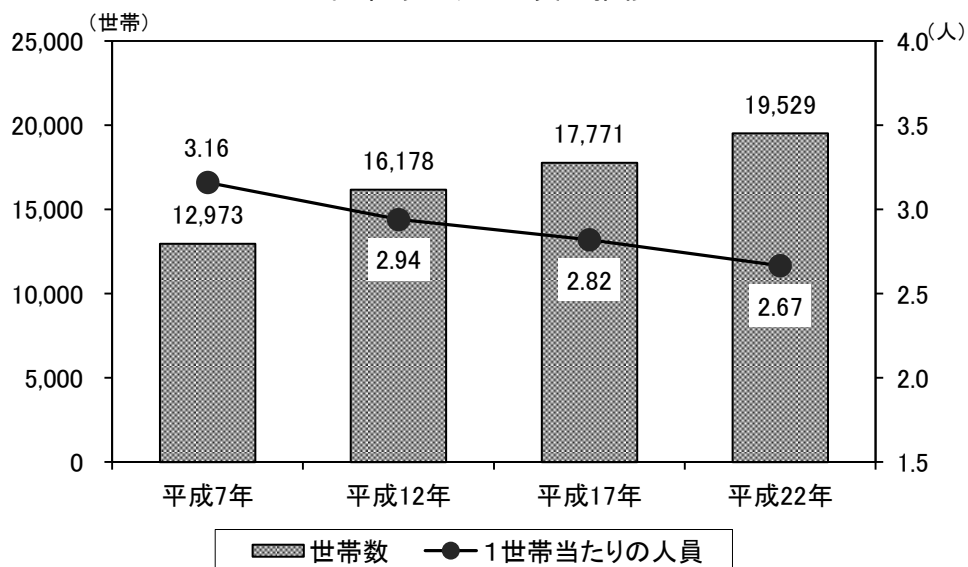
資料：住民基本台帳（岩出市は9月末、和歌山県・全国は10月1日現在）

（3）世帯数と1世帯あたりの人員の推移

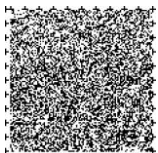
世帯数をみると、増加傾向にあり、平成 22 年には 19,529 世帯と、平成 7 年と比べて 6,556 世帯増加しています。

1 世帯あたりの人員については、平成 7 年の 3.16 人から平成 22 年の 2.67 に減少しており、核家族化が進行していることがわかります。

1 世帯あたりの人員の推移



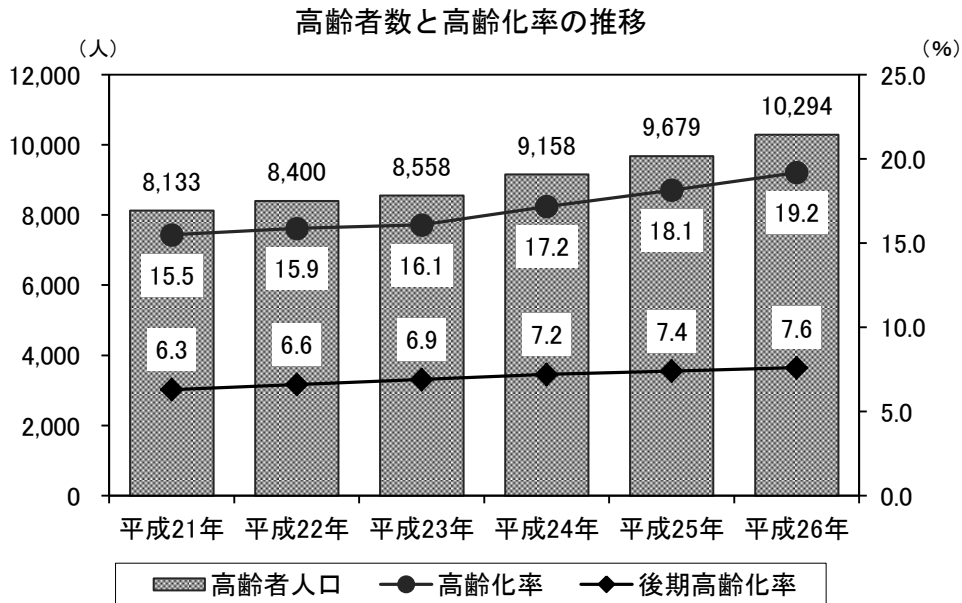
資料：国勢調査（各年 10 月 1 日現在）



2) 高齢者の状況

(1) 高齢者数と高齢化率の推移

高齢者数は年々増加しており、平成26年で10,294人となっています。また、総人口に占める65歳以上の人口の割合（高齢化率）と75歳以上の人口の割合（後期高齢化率）はともに増加しており、平成26年では高齢化率が19.2%、後期高齢化率が7.6%となっています。



(2) 高齢者のいる世帯の状況

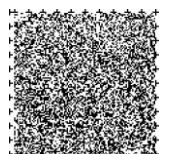
総世帯に占める高齢者のいる世帯、高齢者のひとり暮らし世帯、高齢者夫婦のみ世帯の割合がそれぞれ増加していますが、和歌山県を大きく下回っている状況です。

高齢者のいる世帯の状況

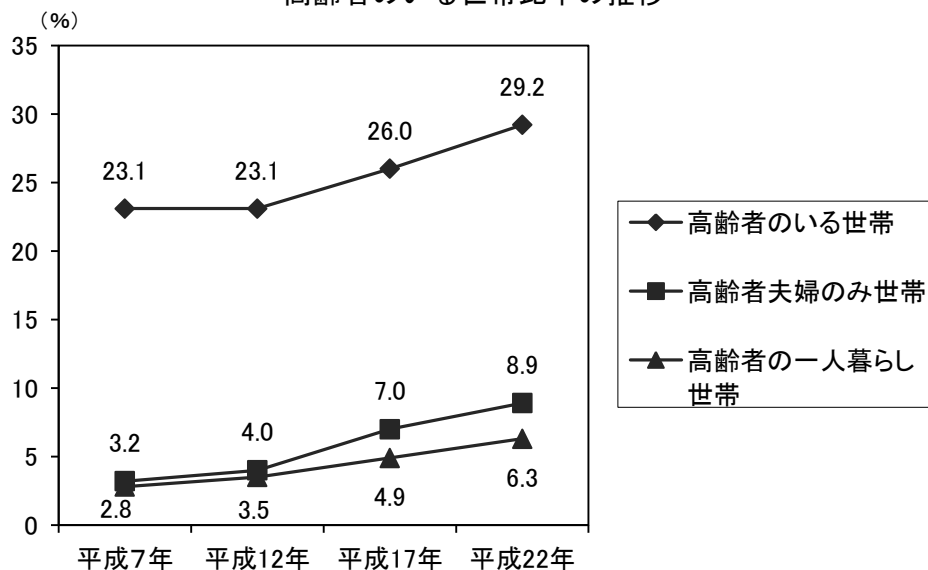
(単位:世帯)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成22年 (和歌山県)
総世帯(A)	12,973	16,178	17,771	19,545	393,553
高齢者のいる世帯(B)	2,993	3,740	4,619	5,709	181,097
比率 B/A	23.1%	23.1%	26.0%	29.2%	46.0%
高齢者のひとり暮らし世帯(C)	357	564	872	1,229	50,309
比率 C/A	2.8%	3.5%	4.9%	6.3%	12.8%
高齢者夫婦のみ世帯(D)	409	648	1,248	1,737	51,672
比率 D/A	3.2%	4.0%	7.0%	8.9%	13.1%

資料：国勢調査（各年10月1日現在）



高齢者のいる世帯比率の推移

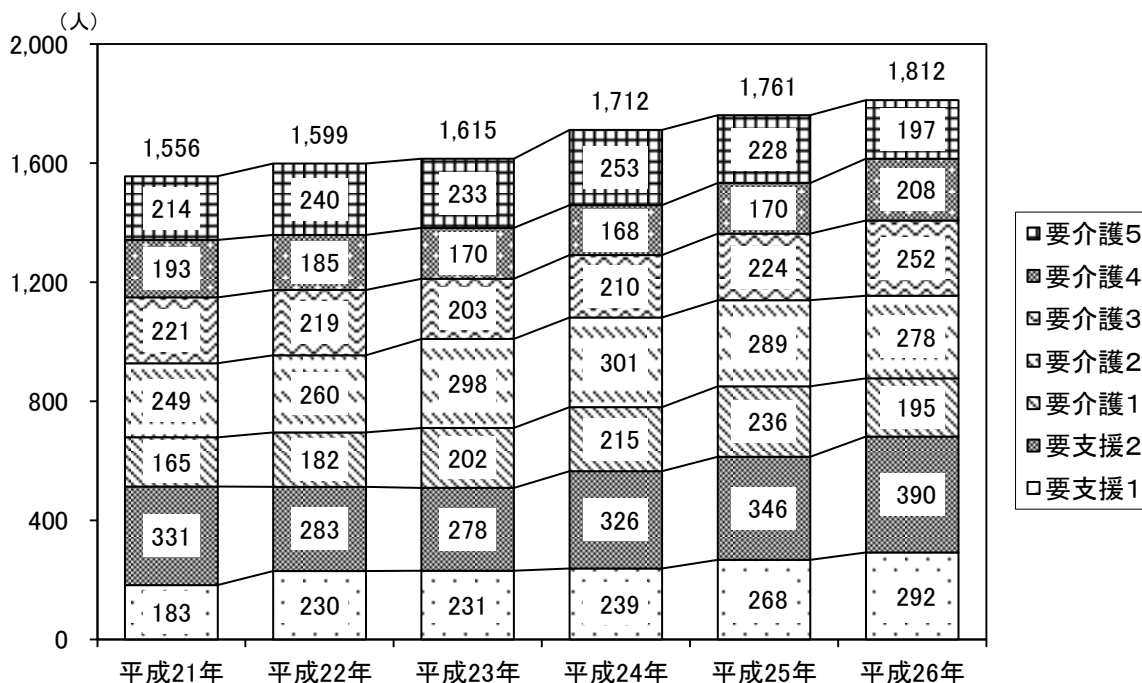


資料：国勢調査（各年10月1日現在）

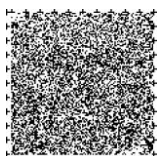
(3) 要支援・要介護認定者数の推移

要支援・要介護認定者数の推移をみると、年々増加しており、平成26年で1,812人となっています。また、要介護別にみると、平成26年では軽度者（要支援及び要介護1）が5割程度占めています。

要支援・要介護認定者数の推移

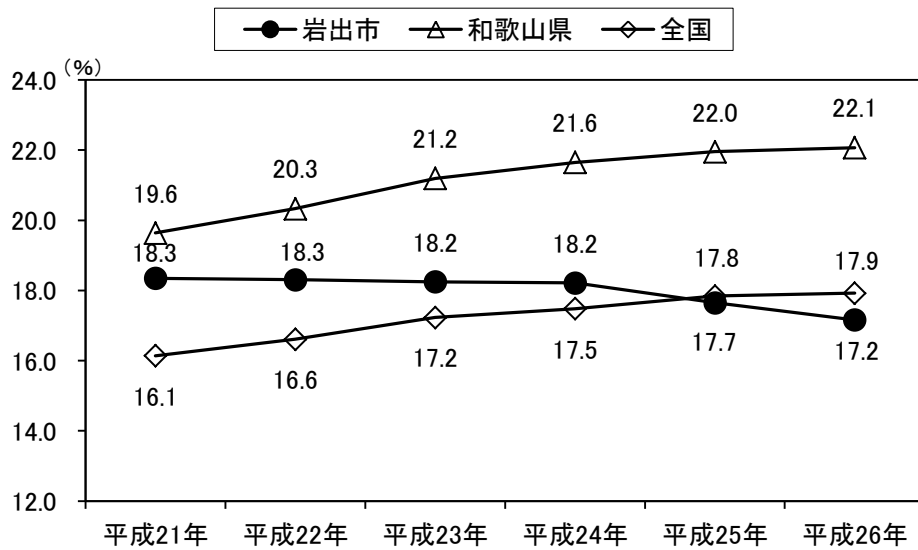


資料：介護保険事業状況報告（各年9月分）



第1号被保険者の認定率の推移をみると、平成24年以降減少傾向にあり、平成26年で17.2%となっています。和歌山県、全国と比べると、平成25年以降、全国と和歌山県を下回って推移しています。

第1号被保険者の認定率の推移



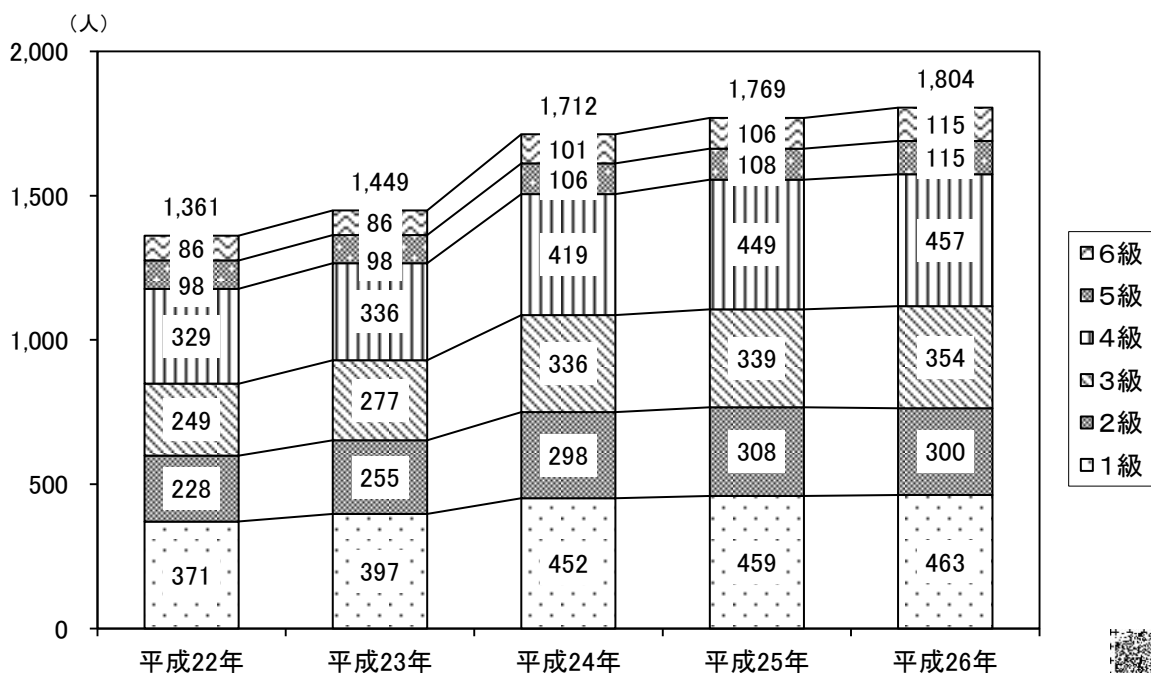
資料：介護保険事業状況報告（各年9月分）

3) 障害のある人の状況

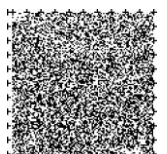
(1) 身体障害者手帳所持者数の推移

身体障害者手帳所持者は、年々増加しており、平成26年で1,804人となっています。等級別にみると、各年1級が最も多く、平成26年では463人となっています。

等級別身体障害者手帳所持者数の推移

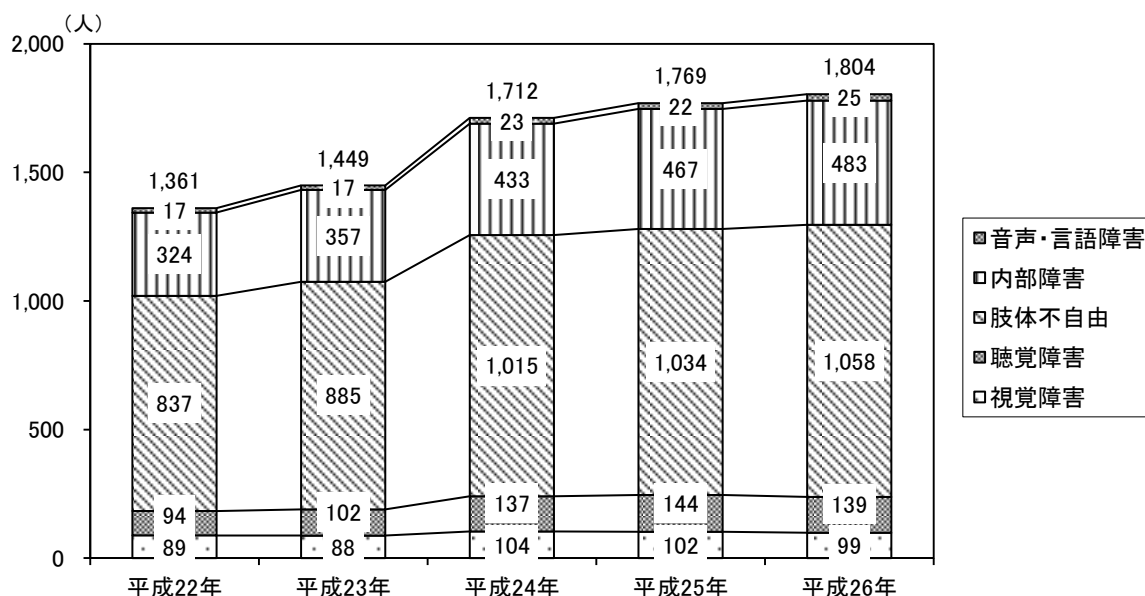


資料：福祉課調べ（各年4月1日現在）



部位別にみると、各年「肢体不自由」が最も多く、平成26年で1,058人となっています。次いで、「内部障害」(483人)、「聴覚障害」(139人)となっています。

部位別身体障害者手帳所持者数の推移

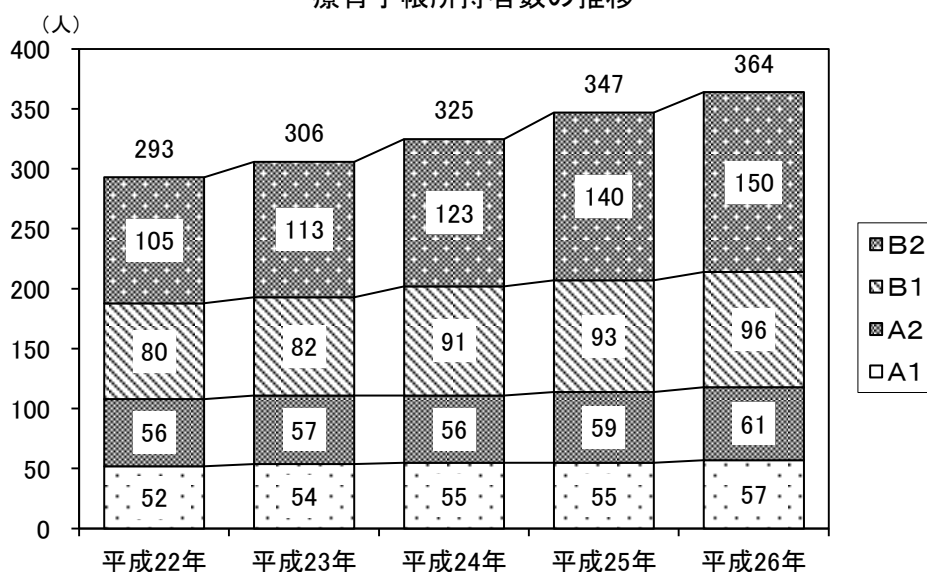


資料：福祉課調べ（各年4月1日現在）

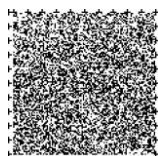
(2) 療育手帳所持者数の推移

療育手帳所持者数の推移をみると、年々増加しており、平成26年で364人となっています。また、判定別にみると、平成26年で「B2」が150人で最も多く、次いで「B1」(96人)、「A2」(61人)となっています。

療育手帳所持者数の推移



資料：福祉課調べ（各年4月1日現在）

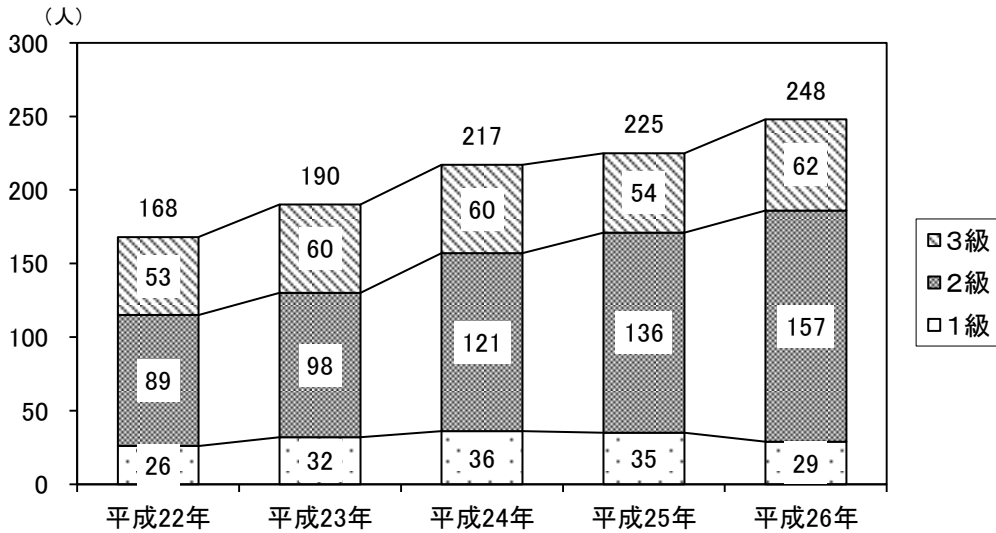


(3) 精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移

精神障害者保健福祉手帳所持者数をみると、年々増加しており、平成26年で248人となっています。

等級別にみると、各年、2級が最も多く、平成26年で157人となっています。

精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移



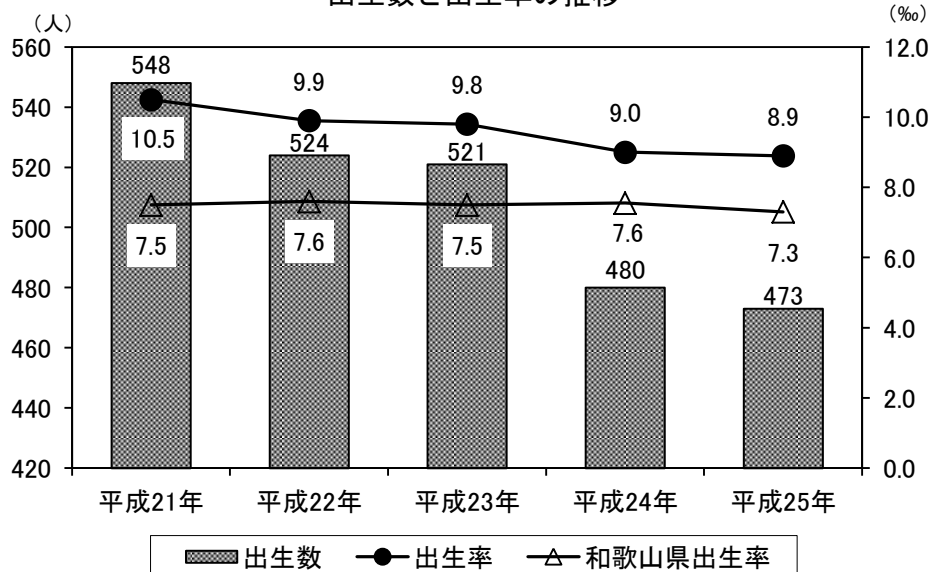
資料：福祉課調べ（各年4月1日現在）

4) 子どもの状況

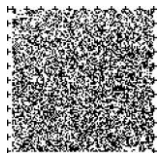
(1) 出生数と出生率の推移

出生数をみると、年々減少傾向にあり、平成25年で473人となっています。また、出生率（人口1,000人あたりの出生数）をみると、和歌山県を上回りながら、9%（パーミル）前後を推移しています。

出生数と出生率の推移

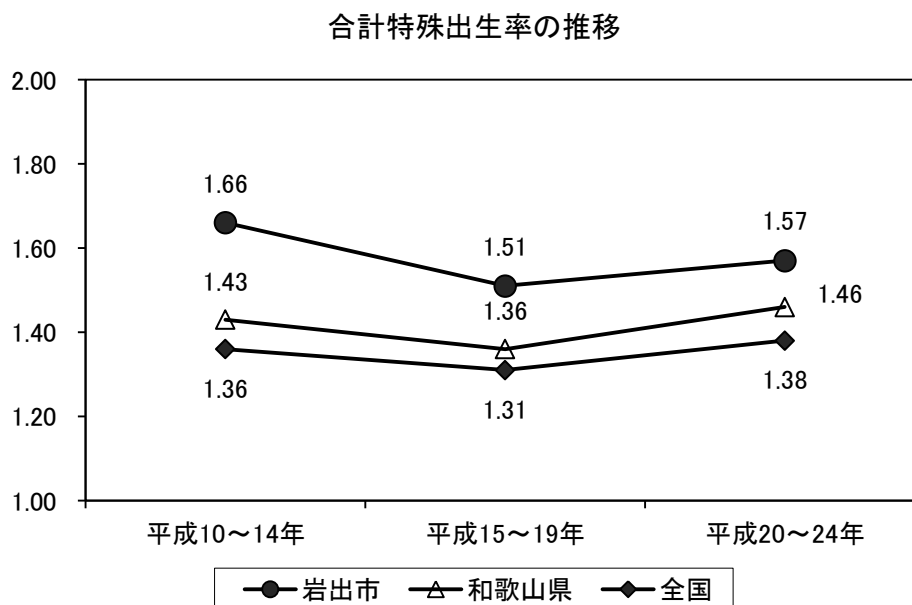


資料：人口動態統計



(2) 合計特殊出生率の推移

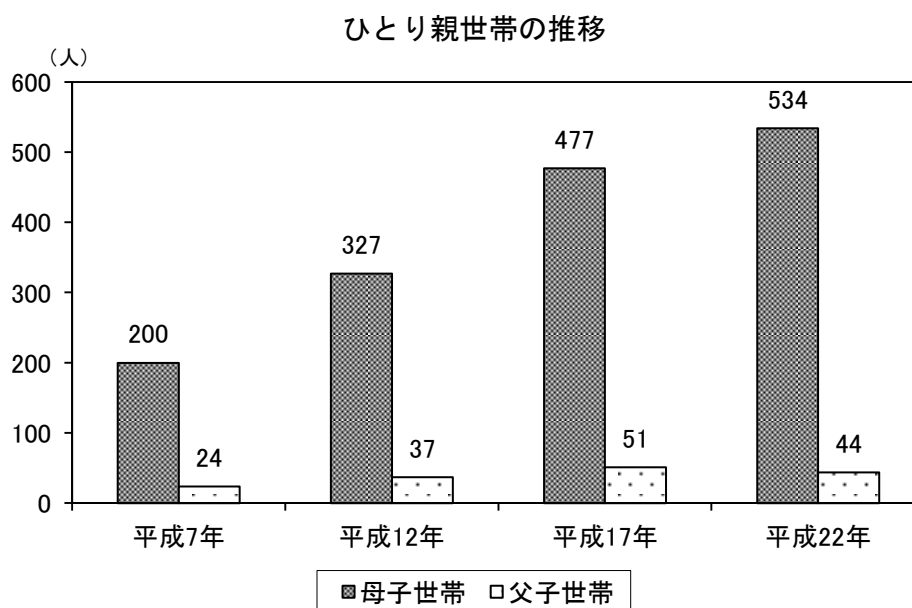
合計特殊出生率(*)の推移をみると、平成20～24年の合計特殊出生率は、平成15～19年の1.51より若干回復し、1.57となっており、和歌山県や全国を上回っています。



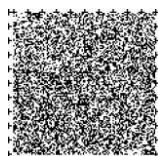
資料：人口動態保健所・市町村別統計

(3) ひとり親世帯の推移

ひとり親世帯の推移をみると、母子世帯は年々増加しており、平成22年で534世帯となっています。父子世帯は、各年で増減しており、平成22年では44世帯となっています。

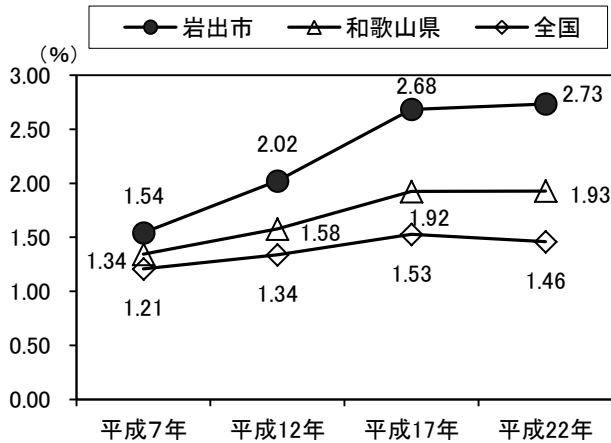


資料：国勢調査（各年10月1日現在）



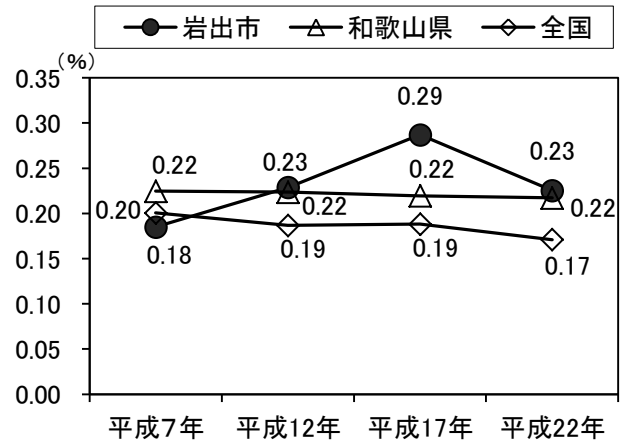
母子世帯及び父子世帯の割合の推移をみると、母子世帯では増加傾向にあり、各年で和歌山県、全国を上回って推移しています。父子世帯は、平成17年までは増加していましたが、平成22年にかけて減少しています。また、和歌山県、全国と比べると、平成12年以降、和歌山県、全国を上回って推移しています。

母子世帯の割合の推移



資料：国勢調査（各年10月1日）

父子世帯の割合の推移

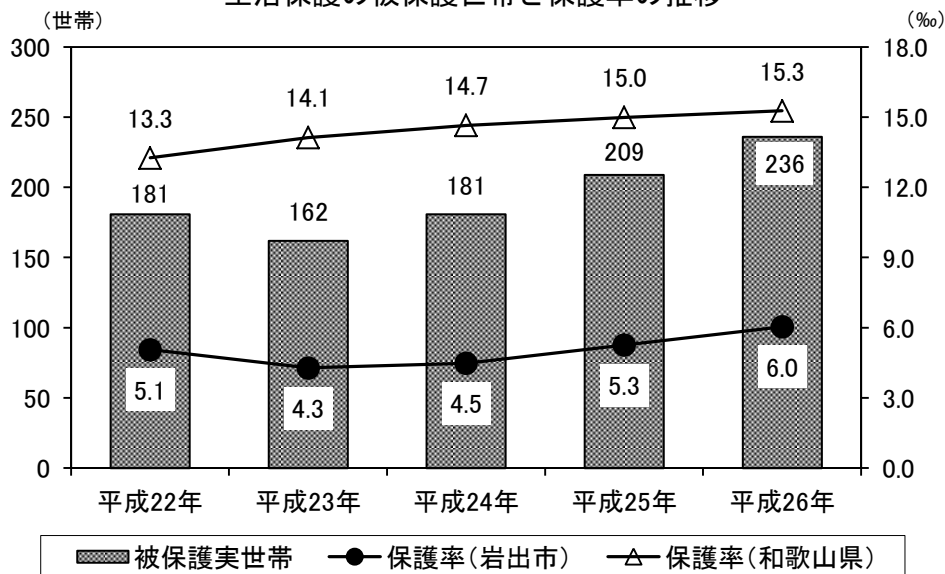


資料：国勢調査（各年10月1日）

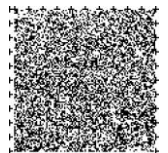
5) 生活保護世帯の状況

生活保護の被保護世帯の推移をみると、平成23年以降、増加傾向にあり、平成26年で236世帯となっています。また、保護率（人口1,000人あたりの被保護者数）の推移をみると、平成23年以降、増加しており、平成26年で6.0‰（パーミル）となっています。和歌山県と比べると、各年下回って推移しています。

生活保護の被保護世帯と保護率の推移



資料：岩出市は福祉課調べ、和歌山県は和歌山県福祉保健総務課調べ

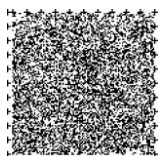


6) 地域福祉の担い手などの状況

		平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度
民生委員・児童委員(*)	人数	86人	90人	90人	90人	91人
	一人あたり 担当世帯数	245世帯	246世帯	250世帯	253世帯	253世帯
	一人あたり 担当人数	634人	631人	633人	634人	629人
社会福祉協議会ボラン ティアセンター	個人登録	104人	97人	87人	77人	73人
	団体登録	29団体	30団体	28団体	30団体	29団体
自治会等(*)	団体数	—	—	383団体	385団体	390団体
	加入世帯	—	—	15,810世帯	15,859世帯	15,879世帯
	加入率	—	—	74.4%	73.7%	72.8%
老人クラブ	団体数	48団体	48団体	48団体	48団体	48団体
	会員数	2,216人	2,087人	2,012人	1,963人	1,991人
地域福祉協議会	団体数	2団体	2団体	3団体	3団体	3団体
	会員数	49人	56人	53人	51人	64人

資料：福祉課調べ

※自治会等（団体数・加入世帯・加入率）は各年3月末現在。



2 市民意識調査からみる状況

1) 目的

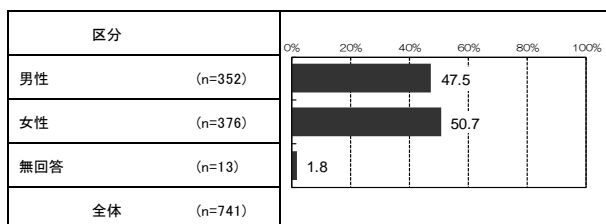
「地域福祉」に対する市民の方の考え方や意見などを把握し、計画策定の基礎資料とするために市民意識調査を実施しました。

2) 調査概要

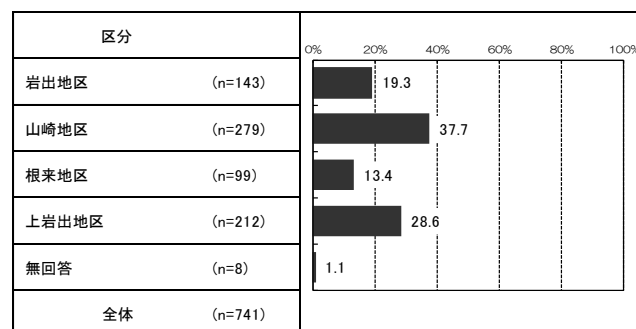
調査対象	岩出市在住の20歳以上の人の中から、2,000名を無作為抽出
調査期間	平成27年3月16日～平成27年3月28日
調査方法	郵送による配布・回収
回収状況	配布数：2,000通、回収数：741通、回収率：37.1%

3) 回答者属性

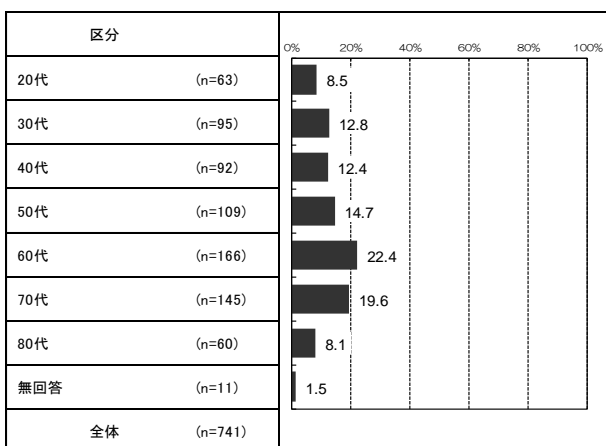
性別



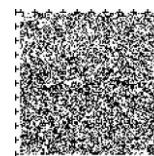
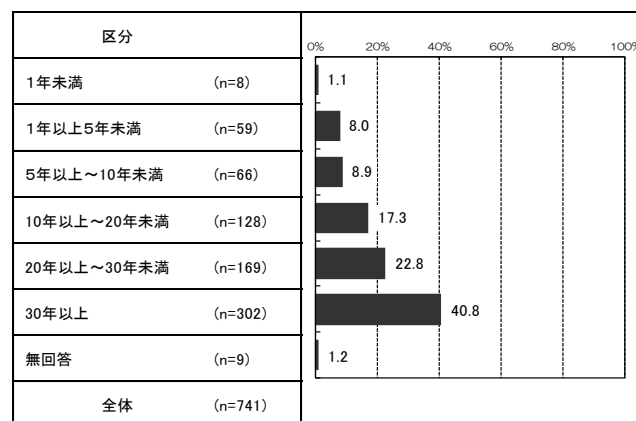
地区



年齢



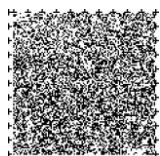
居住年数

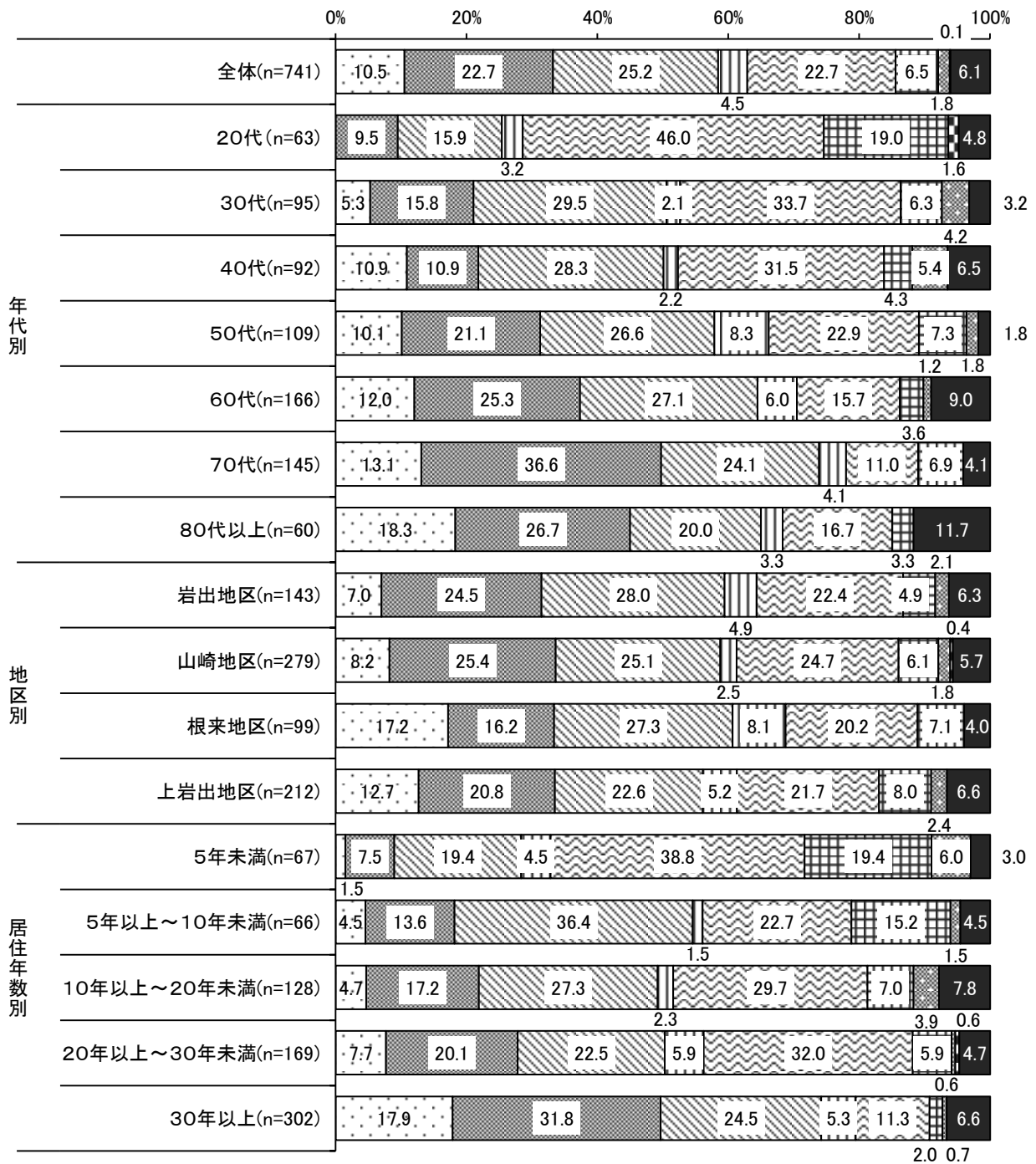


4) 結果の概要

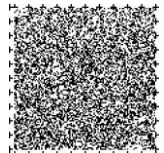
(1) 近所との付き合いについて

- 全体では、「ときどき世間話や立ち話をする」が25.2%で最も多く、「ある程度親しく交流している」と「あいさつ程度」(22.7%)が続いています。
- 年代別にみると、「ほとんど付き合いがない」について、20代が19.0%で最も多くなっています。
- 地区別にみると、山崎地区を除く、すべての地区で「ときどき世間話や立ち話をする」が最も多くなっています。なお、山崎地区では「ある程度親しく交流している」が最も多い状況です。
- 居住年数別にみると、「ほとんど付き合いがない」は居住年数が短いほど多く、5年未満で19.4%となっています。居住年数が短くなるほど近所付き合いの希薄化が目立ちます。



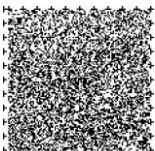
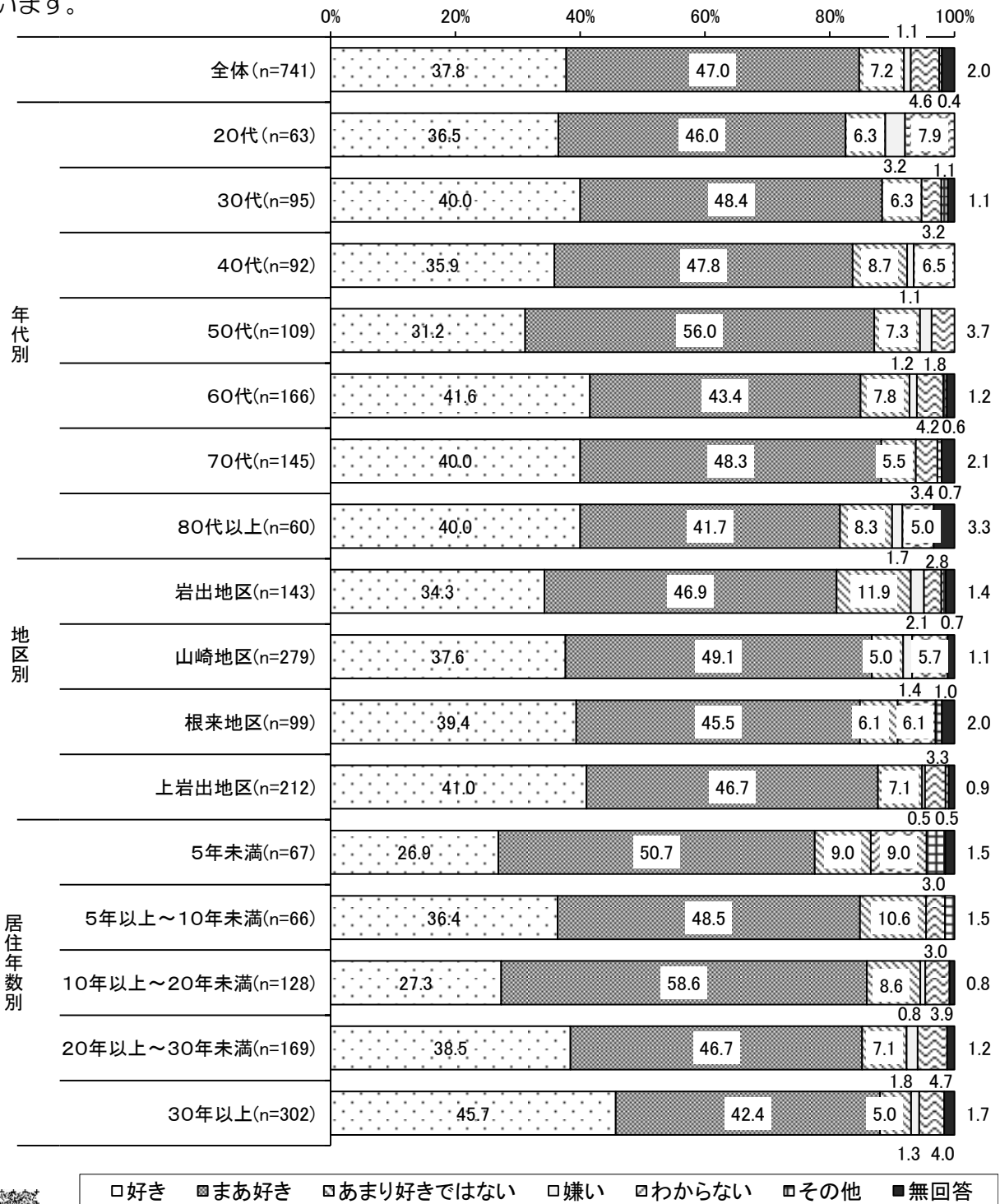


- 困ったときなど助け合っている
- ときどき世間話や立ち話をする
- あいさつ程度
- よく知らない
- 無回答
- ある程度親しく交流している
- 冠婚葬祭や自治会等の行事のみ
- ほとんど付き合いがない
- その他



(2) 地域への愛着

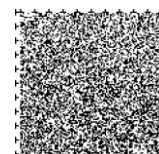
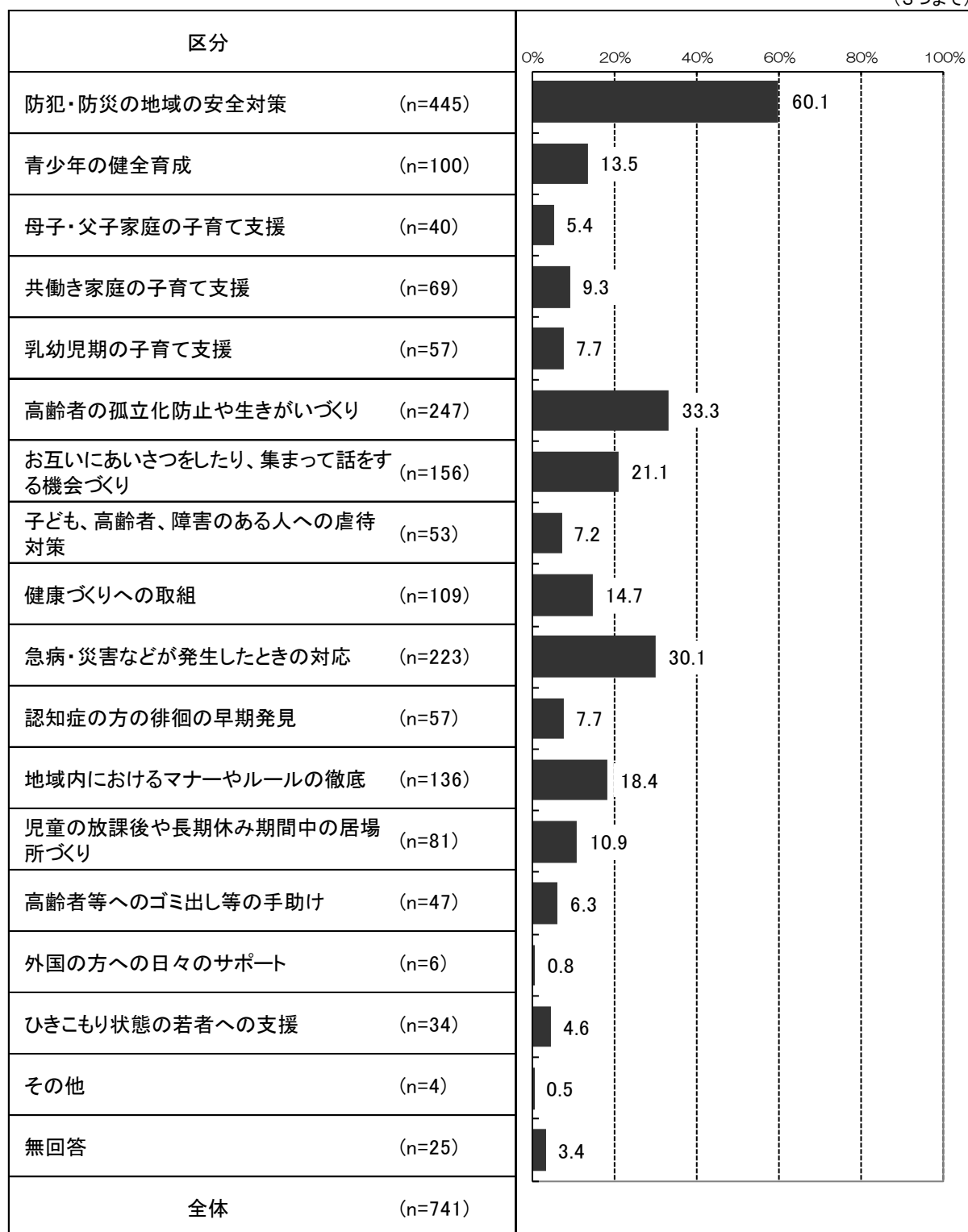
- 全体では、地域が好きな人（「好き」と「まあ好き」の合計）は8割を超えています。
- 年代別にみると、「あまり好きではない」について、40代が8.7%で最も多く、80代以上（8.3%）、60代（7.8%）が続いています。
- 地区別にみると、「あまり好きではない」について、岩出地区が最も多く、1割を超えています。
- 居住年数別にみると、「あまり好きではない」について、5年以上～10年未満で1割を超えています。



(3) 身近な地域で、地域住民が取り組むべき課題や問題点

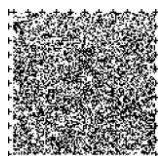
- 「防犯・防災の地域の安全対策」が60.1%で最も多く、「高齢者の孤立化防止や生きがいつくり」(33.3%)と「急病・災害などが発生したときの対応」(30.1%)が続いています。

(3つまで)



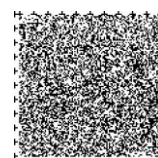
●年代別にみると、すべての年代で「防犯・防災の地域の安全対策」が最も多くなっています。

	回答数	防犯・防災の地域の安全対策	青少年の健全育成	母子・父子家庭の子育て支援	共働き家庭の子育て支援	乳幼児期の子育て支援	高齢者の孤立化防止や生きがいづくり	お互いにあいさつをしたり、集まって話をする機会づくり	子ども、高齢者、障がいのある人への虐待対策	健康づくりへの取組	急病・災害などが発生したときの対応	認知症の方の徘徊の早期発見	地域内におけるマナーやルールの徹底	児童の放課後や長期休み期間中の居場所づくり	高齢者等へのゴミ出し等の手助け	外国の方への日々のサポート	ひきこもり（*）状態の若者への支援	その他	無回答
全体	741	60.1	13.5	5.4	9.3	7.7	33.3	21.1	7.2	14.7	30.1	7.7	18.4	10.9	6.3	0.8	4.6	0.5	3.4
20代	63	57.1	12.7	7.9	14.3	20.6	22.2	17.5	14.3	12.7	33.3	1.6	12.7	15.9	4.8	1.6	6.3	1.6	1.6
30代	95	68.4	9.5	3.2	31.6	22.1	13.7	16.8	10.5	5.3	23.2	2.1	21.1	30.5	1.1	0.0	6.3	1.1	0.0
40代	92	63.0	18.5	10.9	15.2	6.5	19.6	15.2	8.7	7.6	20.7	5.4	19.6	17.4	2.2	2.2	6.5	0.0	3.3
50代	109	60.6	16.5	9.2	4.6	6.4	31.2	20.2	7.3	10.1	35.8	10.1	20.2	6.4	4.6	0.9	9.2	0.0	2.8
60代	166	57.8	13.3	4.2	4.8	3.6	51.8	20.5	4.8	21.7	34.9	7.8	17.5	6.6	6.6	1.2	2.4	0.6	2.4
70代	145	60.0	12.4	3.4	2.1	2.1	40.7	29.0	4.1	20.0	29.7	11.7	20.0	4.8	8.3	0.0	1.4	0.7	3.4
80代以上	60	53.3	8.3	0.0	0.0	0.0	33.3	25.0	3.3	20.0	31.7	11.7	15.0	1.7	21.7	0.0	1.7	0.0	10.0



●すべての地区で「防犯・防災の地域の安全対策」が最も多くなっています。

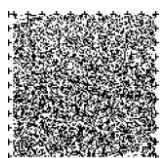
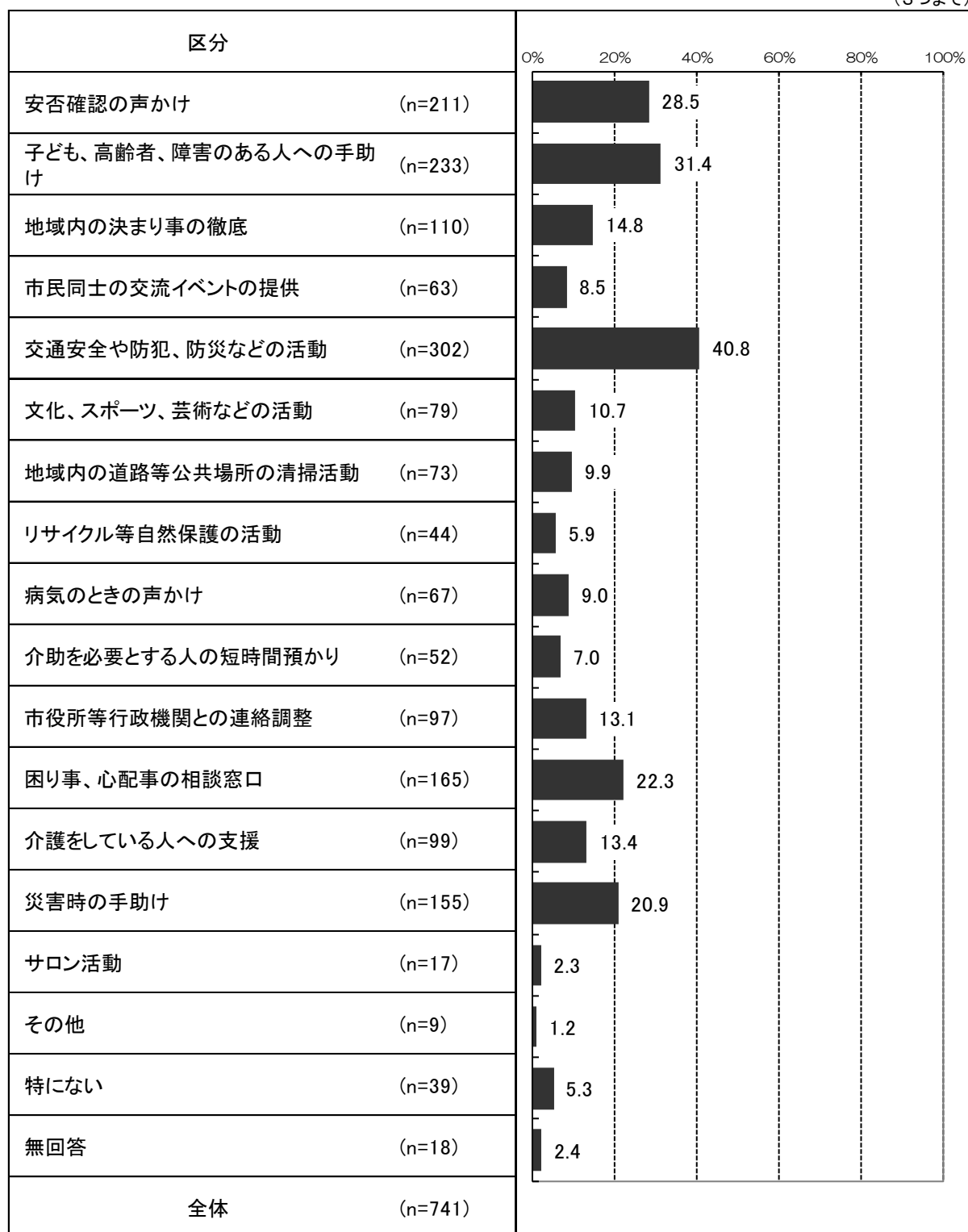
	回答数	防犯・防災の地域の安全対策	青少年の健全育成	母子・父子家庭の子育て支援	共働き家庭の子育て支援	乳幼児期の子育て支援	高齢者の孤立化防止や生きがいづくり	お互いにあいさつをしたり、集まって話をする機会づくり	子ども、高齢者、障がいのある人への虐待対策	健康づくりへの取組	急病・災害などが発生したときの対応	認知症の方の徘徊の早期発見	地域内におけるマナーやルールの徹底	児童の放課後や長期休み期間中の居場所づくり	高齢者等へのゴミ出し等の手助け	外国の方への日々のサポート	ひきこもり状態の若者への支援	その他	無回答
全体	741	60.1	13.5	5.4	9.3	7.7	33.3	21.1	7.2	14.7	30.1	7.7	18.4	10.9	6.3	0.8	4.6	0.5	3.4
岩出地区	143	58.7	14.0	4.9	4.9	3.5	34.3	21.0	7.7	17.5	28.0	7.0	21.7	9.1	9.1	0.7	4.9	0.7	2.8
山崎地区	279	64.2	12.2	2.2	10.8	8.6	35.1	24.0	5.0	15.1	31.2	7.5	18.3	11.1	6.1	0.7	3.2	1.1	2.2
根来地区	99	60.6	13.1	6.1	10.1	10.1	26.3	23.2	8.1	16.2	26.3	7.1	20.2	13.1	3.0	1.0	5.1	0.0	4.0
上岩出地区	212	56.1	14.6	9.9	10.4	8.0	34.0	16.5	9.0	11.8	32.5	9.0	15.6	11.3	6.6	0.9	6.1	0.0	3.8



(4) 地域の中で安心して暮らしていくために、地域組織や団体に期待すること

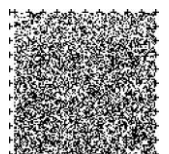
- 「交通安全や防犯、防災などの活動」が40.8%で最も多く、「子ども、高齢者、障害のある人への手助け」(31.4%)と「安否確認の声かけ」(28.5%)が続いています。

(3つまで)



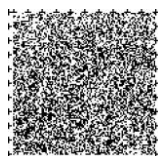
●年代別にみると、20～60代では「交通安全や防犯、防災などの活動」、70代以上では「安否確認の声かけ」が最も多くなっています。

	回答数	安否確認の声かけ	子ども、高齢者、障がいのある人への手助け	地域内の決まり事の徹底	市民同士の交流イベントの提供	交通安全や防犯、防災などの活動	文化、スポーツ、芸術などの活動	地域内の道路等公共場所の清掃活動	リサイクル等自然保護の活動	病気のときの声かけ	介助を必要とする人の短時間預かり	市役所等行政機関との連絡調整	困り事、心配事の相談窓口	介護をしている人への支援	災害時の手助け	サロン活動	その他	特にない	無回答
全体	741	28.5	31.4	14.8	8.5	40.8	10.7	9.9	5.9	9.0	7.0	13.1	22.3	13.4	20.9	2.3	1.2	5.3	2.4
20代	63	15.9	36.5	4.8	9.5	42.9	19.0	11.1	1.6	1.6	6.3	11.1	25.4	17.5	33.3	1.6	4.8	4.8	0.0
30代	95	24.2	40.0	15.8	6.3	48.4	9.5	11.6	2.1	4.2	6.3	8.4	16.8	21.1	28.4	1.1	0.0	7.4	0.0
40代	92	23.9	43.5	6.5	7.6	47.8	12.0	9.8	5.4	4.3	5.4	12.0	30.4	7.6	27.2	0.0	0.0	4.3	2.2
50代	109	26.6	29.4	14.7	6.4	48.6	9.2	8.3	9.2	11.9	7.3	15.6	22.9	14.7	17.4	0.9	1.8	6.4	1.8
60代	166	27.1	27.1	18.1	13.3	40.4	12.7	9.6	7.2	8.4	7.2	13.9	22.9	11.4	21.1	2.4	1.2	4.2	0.6
70代	145	35.2	23.4	20.7	9.7	34.5	8.3	10.3	6.9	13.1	6.9	15.9	20.0	13.8	10.3	5.5	0.7	5.5	4.1
80代以上	60	46.7	31.7	13.3	1.7	21.7	6.7	10.0	3.3	16.7	10.0	10.0	16.7	10.0	18.3	3.3	1.7	5.0	6.7



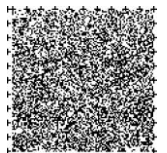
●地区別にみると、すべての地区で「交通安全や防犯、防災などの活動」が最も多く、上岩出地区を除く、すべての地区で4割を超えています。

	回答数	安否確認の声かけ	子ども、高齢者、障がいのある人への手助け	地域内の決まり事の徹底	市民同士の交流イベントの提供	交通安全や防犯、防災などの活動	文化、スポーツ、芸術などの活動	地域内の道路等公共場所の清掃活動	リサイクル等自然保護の活動	病気のときの声かけ	介助を必要とする人の短時間預かり	市役所等行政機関との連絡調整	困り事、心配事の相談窓口	介護をしている人への支援	災害時の手助け	サロン活動	その他	特になし	無回答
全体	741	28.5	31.4	14.8	8.5	40.8	10.7	9.9	5.9	9.0	7.0	13.1	22.3	13.4	20.9	2.3	1.2	5.3	2.4
岩出地区	143	31.5	34.3	10.5	6.3	42.7	9.1	10.5	4.9	11.9	9.8	17.5	15.4	11.9	23.1	2.8	1.4	5.6	1.4
山崎地区	279	27.6	30.1	15.8	8.6	41.2	12.9	9.3	6.1	8.6	5.0	10.4	20.1	13.6	23.3	2.2	1.8	5.4	1.1
根来地区	99	29.3	28.3	16.2	11.1	45.5	11.1	14.1	7.1	3.0	8.1	13.1	22.2	11.1	14.1	2.0	0.0	6.1	2.0
上岩出地区	212	27.8	33.5	15.6	9.0	37.7	9.0	8.5	5.7	10.4	7.1	13.7	29.7	15.6	19.3	2.4	0.9	4.7	3.8



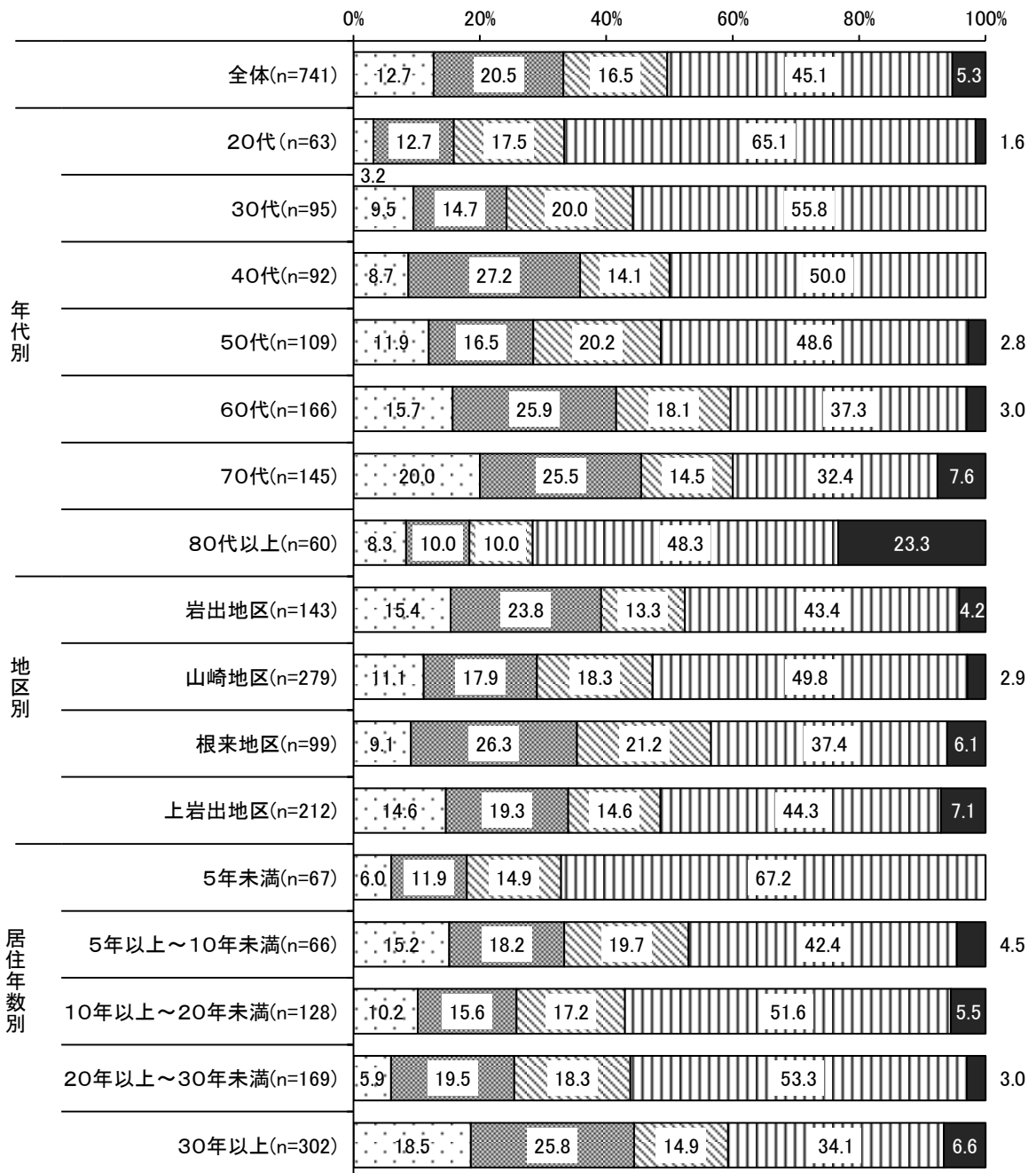
●居住年数別にみると、居住年数に関係なく、「交通安全や防犯、防災などの活動」が最も多くなっています。

	回答数	安否確認の声かけ	子ども、高齢者、障がいのある人への手助け	地域内の決まり事の徹底	市民同士の交流イベントの提供	交通安全や防犯、防災などの活動	文化、スポーツ、芸術などの活動	地域内の道路等公共場所の清掃活動	リサイクル等自然保護の活動	病気のときの声かけ	介助を必要とする人の短時間預かり	市役所等行政機関との連絡調整	困り事、心配事の相談窓口	介護をしている人への支援	災害時の手助け	サロン活動	その他	特にない	無回答
全体	741	28.5	31.4	14.8	8.5	40.8	10.7	9.9	5.9	9.0	7.0	13.1	22.3	13.4	20.9	2.3	1.2	5.3	2.4
5年未満	67	11.9	34.3	9.0	6.0	38.8	10.4	7.5	1.5	1.5	11.9	16.4	26.9	14.9	28.4	3.0	0.0	9.0	0.0
5年以上～10年未満	66	25.8	34.8	18.2	6.1	42.4	10.6	19.7	7.6	4.5	4.5	9.1	18.2	15.2	25.8	0.0	1.5	3.0	1.5
10年以上～20年未満	128	25.8	35.2	10.2	9.4	37.5	8.6	8.6	7.8	10.2	3.1	11.7	30.5	9.4	28.9	0.8	1.6	7.0	1.6
20年以上～30年未満	169	23.7	33.7	13.6	10.1	45.6	11.8	7.1	5.9	7.7	8.9	11.2	21.9	18.9	18.3	1.2	2.4	3.0	2.4
30年以上	302	37.1	27.8	17.9	8.6	40.4	11.3	10.6	5.6	11.6	7.0	14.6	18.5	11.6	16.2	4.0	0.7	5.6	2.6

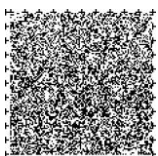


(5) 地域活動やボランティア活動の参加状況

- 全体では、「まったく参加していない」が45.1%で最も多く、「ときどき参加している」(20.5%)と「あまり参加していない」(16.5%)が続いています。
- 年代別にみると、「まったく参加していない」について、20～40代で5割を超えており、特に20代では6割を超えています。
- 地区別にみると、「まったく参加していない」について、根来地区を除く、すべての地区で4割を超えています。
- 居住年数別にみると、「まったく参加していない」について、5年未満で7割弱となっています。

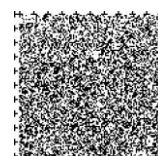
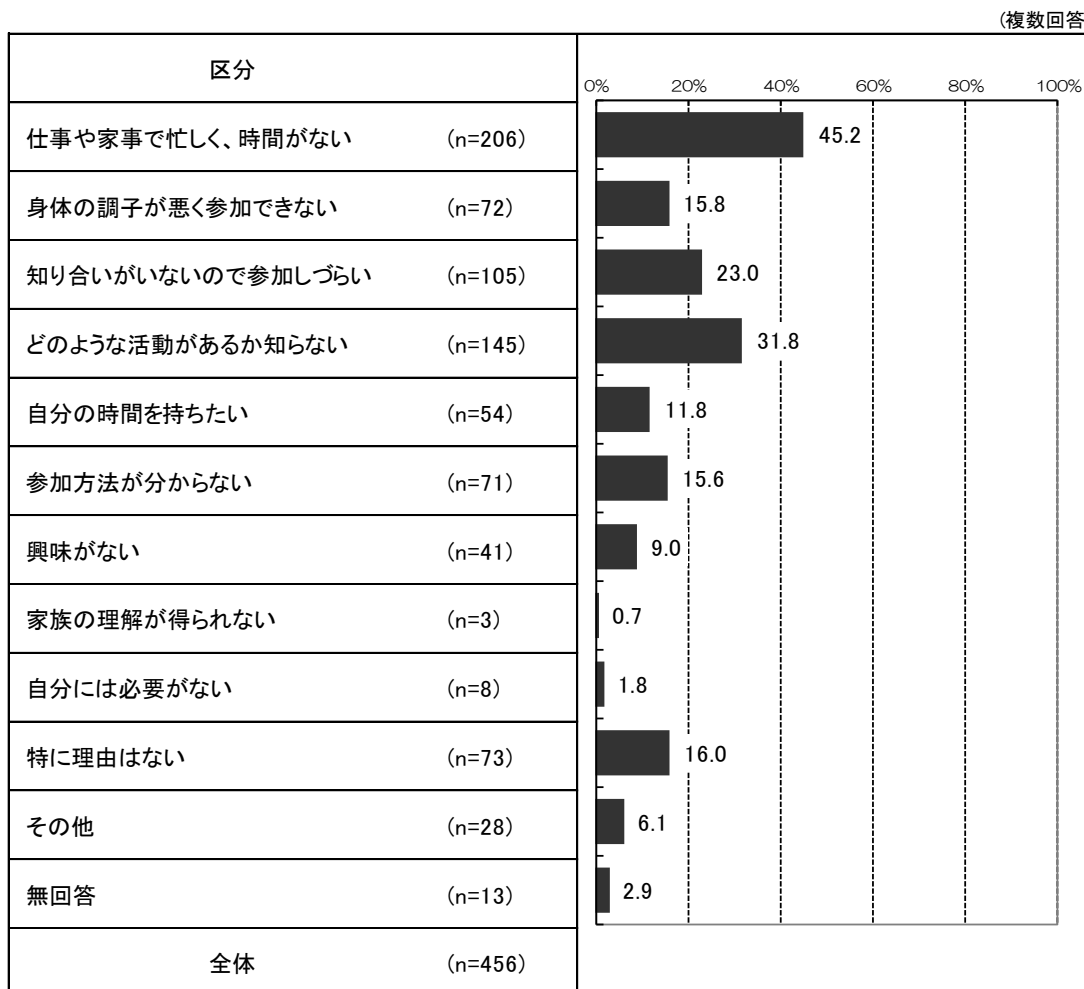


継続的に参加している
 ときどき参加している
 あまり参加していない
 まったく参加していない
 無回答



(6) 地域活動やボランティア活動に参加しない理由

●「仕事や家事で忙しく、時間がない」が45.2%で最も多く、「どのような活動があるか知らない」(31.8%)と「知り合いがいないので参加しづらい」(23.0%)が続いています。

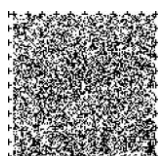
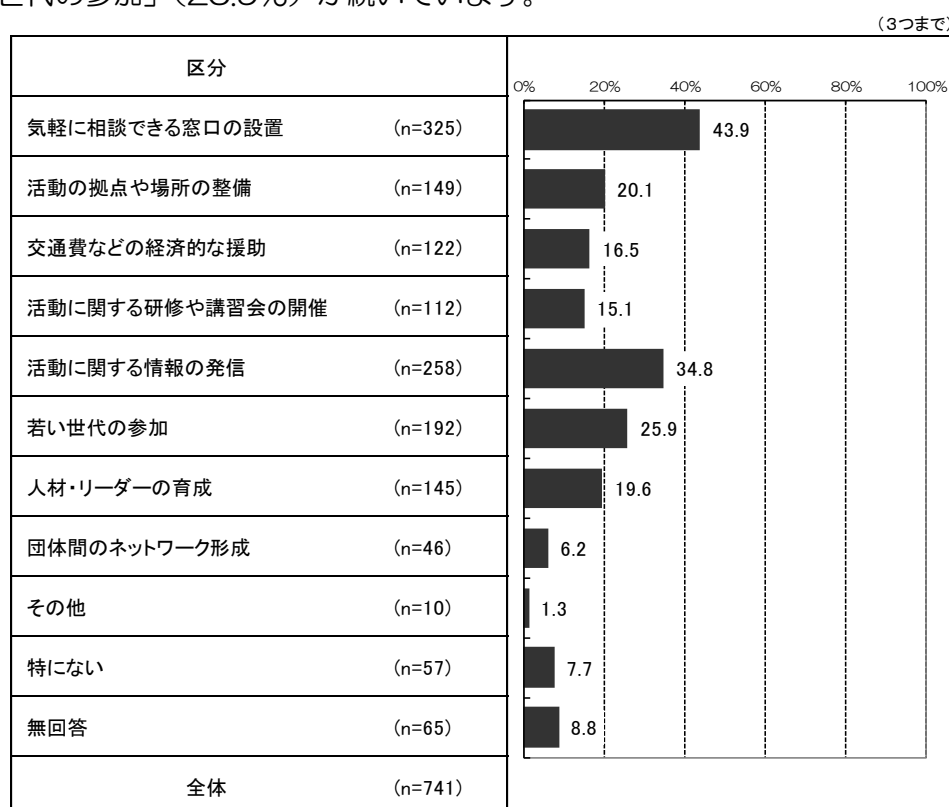


- 年代別にみると、20～50代では「仕事や家事で忙しく、時間がない」、60代では「仕事や家事で忙しく、時間がない」と「どのような活動があるか知らない」、70代では「知り合いが少ないので参加しづらい」、80代以上では「身体の調子が悪く参加できない」が最も多くなっています。

	回答数	仕事や家事で忙しく、時間がない	身体の調子が悪く参加できない	知り合いが少ないので参加しづらい	どのような活動があるか知らない	自分の時間をもちたい	参加方法が分からない	興味がない	家族の理解が得られない	自分には必要がない	特に理由はない	その他	無回答
全体	456	45.2	15.8	23.0	31.8	11.8	15.6	9.0	0.7	1.8	16.0	6.1	2.9
20代	52	67.3	1.9	13.5	40.4	19.2	15.4	19.2	0.0	3.8	7.7	1.9	0.0
30代	72	55.6	4.2	22.2	37.5	13.9	15.3	8.3	0.0	1.4	12.5	9.7	1.4
40代	59	67.8	6.8	28.8	27.1	5.1	13.6	3.4	0.0	3.4	10.2	3.4	1.7
50代	75	60.0	12.0	28.0	42.7	9.3	8.0	5.3	1.3	1.3	18.7	2.7	1.3
60代	92	30.4	18.5	25.0	30.4	16.3	27.2	8.7	0.0	1.1	22.8	9.8	4.3
70代	68	20.6	22.1	27.9	22.1	11.8	17.6	8.8	2.9	0.0	20.6	2.9	4.4
80代以上	35	8.6	62.9	5.7	17.1	2.9	0.0	11.4	0.0	2.9	14.3	14.3	5.7

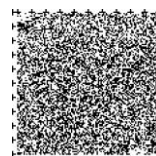
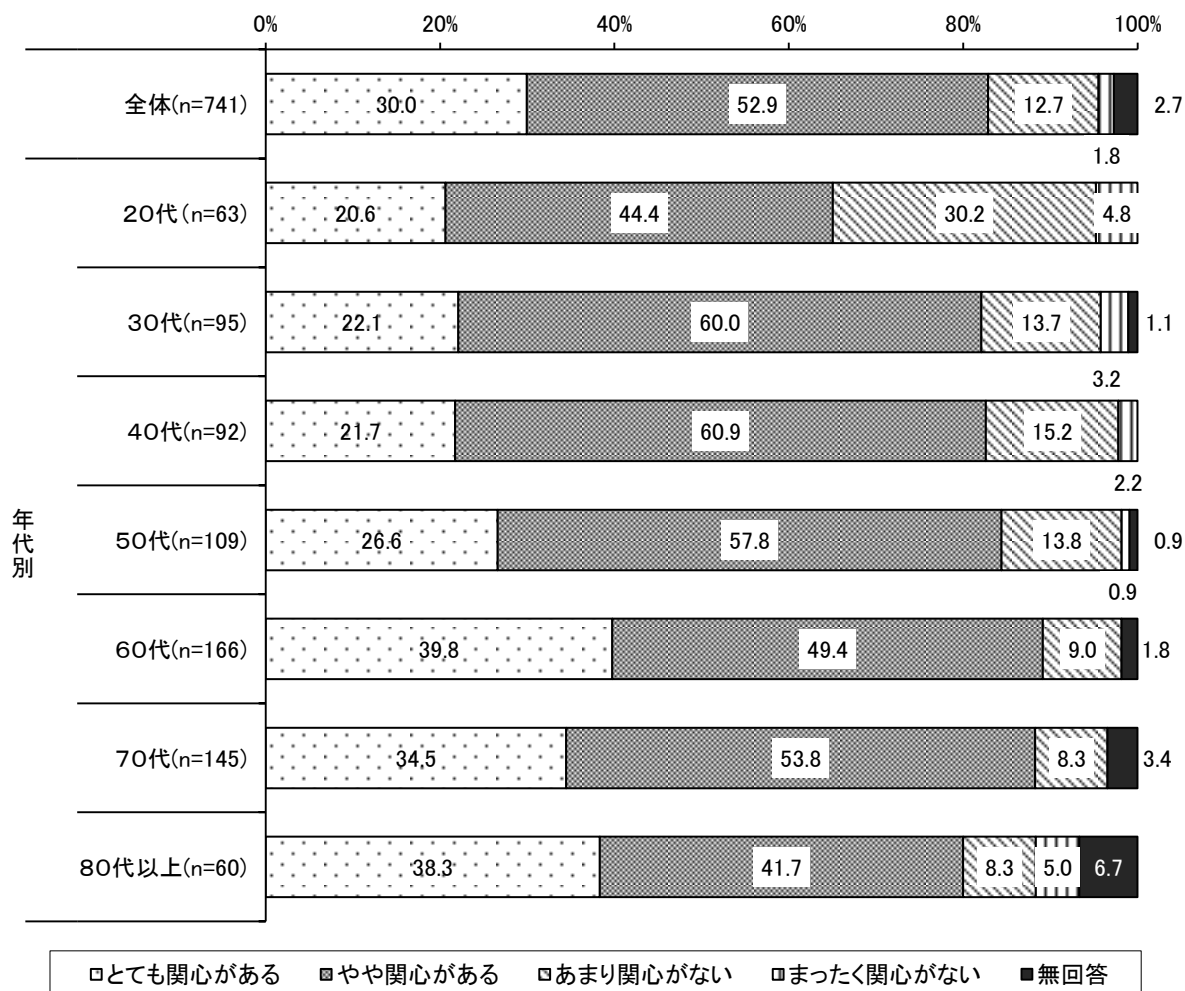
(7) 地域活動やボランティア活動など助け合い活動を活性化させるために必要なこと

- 「気軽に相談できる窓口の設置」が43.9%で最も多く、「活動に関する情報の発信」(34.8%)と「若い世代の参加」(25.9%)が続いています。



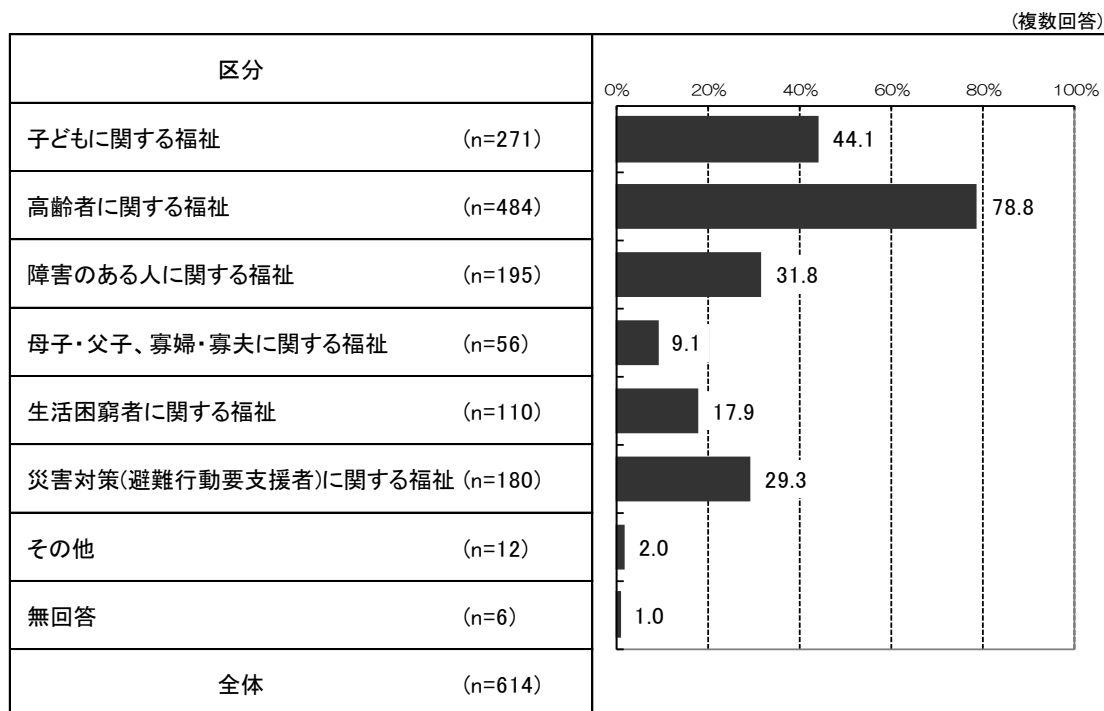
(8) 福祉への関心

- 全体では、「やや関心がある」が 52.9%で最も多く、関心がある人（「とても関心がある」と「やや関心がある」の合計）は8割を超えています。
- 年代別にみると、関心がある人（「とても関心がある」と「やや関心がある」の合計）は、30代以上で8割を超えているのに対し、20代では6割台となっています。



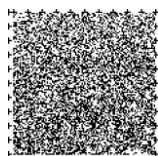
(9) 関心のある福祉分野

- 「高齢者に関する福祉」が78.8%で最も多く、「子どもに関する福祉」(44.1%)と「障害のある人に関する福祉」(31.8%)が続いています。



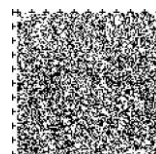
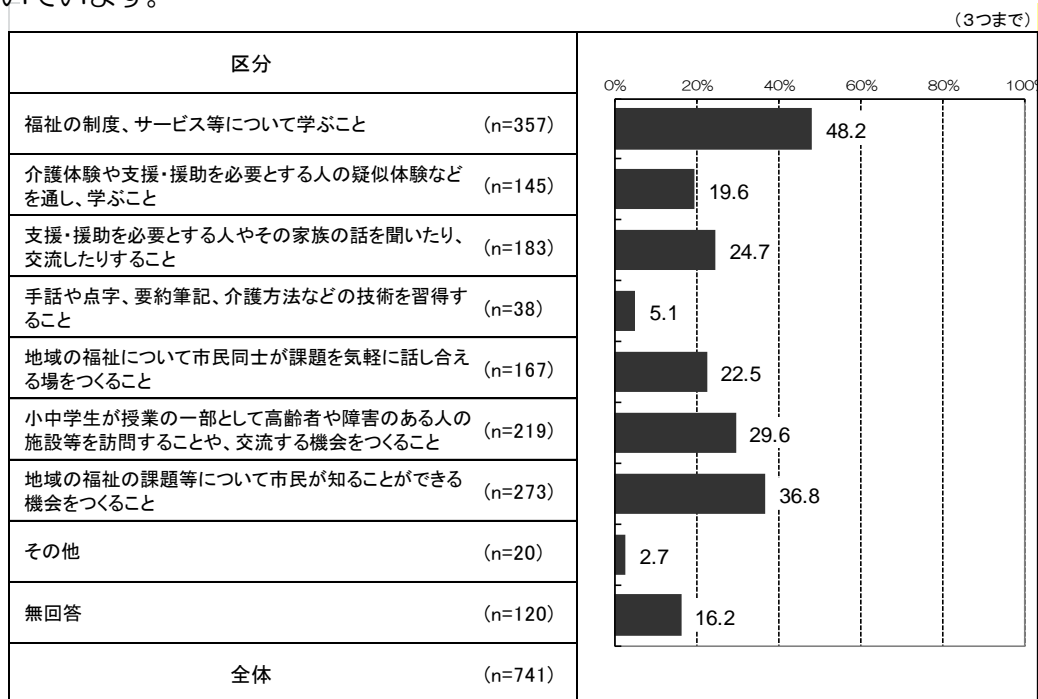
- 年代別にみると、20代では「子どもに関する福祉」と「高齢者に関する福祉」、30代では「子どもに関する福祉」、40代以上では「高齢者に関する福祉」が最も多くなっています。なお、「高齢者に関する福祉」について、50・60代で9割を超えています。

	回答数	子どもに関する福祉	高齢者に関する福祉	障害のある人に関する福祉	母子・父子、寡婦・寡夫に関する福祉	生活困窮者に関する福祉	災害対策(避難行動要支援者)に関する福祉	その他	無回答
全体	614	44.1	78.8	31.8	9.1	17.9	29.3	2.0	1.0
20代	41	61.0	61.0	31.7	12.2	14.6	24.4	2.4	0.0
30代	78	84.6	46.2	25.6	7.7	10.3	34.6	1.3	0.0
40代	76	60.5	67.1	34.2	6.6	11.8	28.9	2.6	0.0
50代	92	42.4	92.4	33.7	7.6	16.3	28.3	2.2	1.1
60代	148	31.8	90.5	32.4	10.8	25.0	37.2	2.7	0.7
70代	128	29.7	85.9	29.7	11.7	21.1	23.4	0.8	1.6
80代以上	48	18.8	83.3	37.5	4.2	14.6	20.8	2.1	4.2



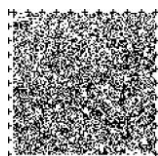
(10) 福祉について理解を深めるために必要なこと

●「福祉の制度、サービス等について学ぶこと」が48.2%で最も多く、「地域の福祉の課題等について市民が知ることができる機会をつくること」(36.8%)と「小中学生が授業の一部として高齢者や障害のある人の施設等を訪問することや、交流する機会をつくること」(29.6%)が続いています。



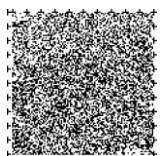
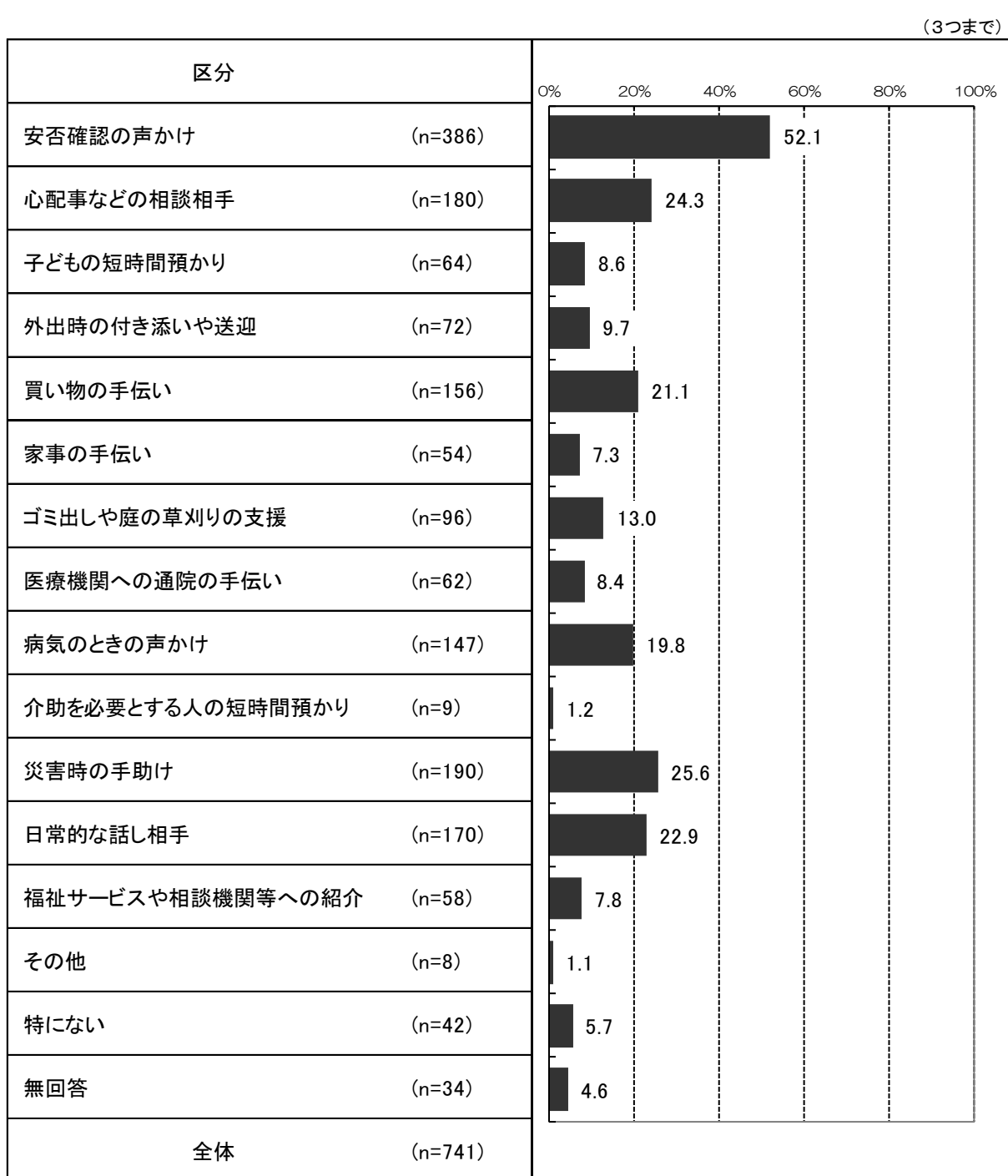
●年代別にみると、40代と80代以上を除く、すべての年代で「福祉の制度、サービス等について学ぶこと」が最も多くなっています。

	回答数	福祉の制度、サービス等について学ぶこと	介護体験や支援・援助を必要とする人の疑似体験などを通し、学ぶこと	支援・援助を必要とする人やその家族の話を聞いたり、交流したりすること	手話や点字、要約筆記、介護方法などの技術を習得すること	地域の福祉について市民同士が課題を気軽に話し合える場をつくること	小中学生が授業の一部として高齢者や障害のある人の施設等を訪問することや、交流する機会をつくること	地域の福祉の課題等について市民が知ることが出来る機会をつくること	その他	無回答
全体	741	48.2	19.6	24.7	5.1	22.5	29.6	36.8	2.7	16.2
20代	63	42.9	23.8	22.2	11.1	12.7	36.5	31.7	3.2	15.9
30代	95	43.2	25.3	17.9	2.1	14.7	36.8	27.4	5.3	17.9
40代	92	44.6	18.5	21.7	7.6	18.5	38.0	50.0	3.3	14.1
50代	109	62.4	22.0	32.1	4.6	22.0	29.4	38.5	2.8	9.2
60代	166	56.0	17.5	24.7	6.0	25.9	29.5	36.7	1.8	15.1
70代	145	47.6	18.6	24.8	2.8	29.7	22.8	40.0	0.0	13.8
80代以上	60	28.3	13.3	28.3	1.7	30.0	18.3	31.7	5.0	31.7



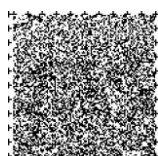
(11) 困り事を抱えている人たちから助けを求められたときにできること

- 「安否確認の声かけ」が52.1%で最も多く、「災害時の手助け」(25.6%)と「心配事などの相談相手」(24.3%)が続いています。



●年代別にみると、20代では「災害時の手助け」、30～70代では「安否確認の声かけ」、80代以上では「日常的な話し相手」が最も多くなっています。

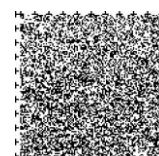
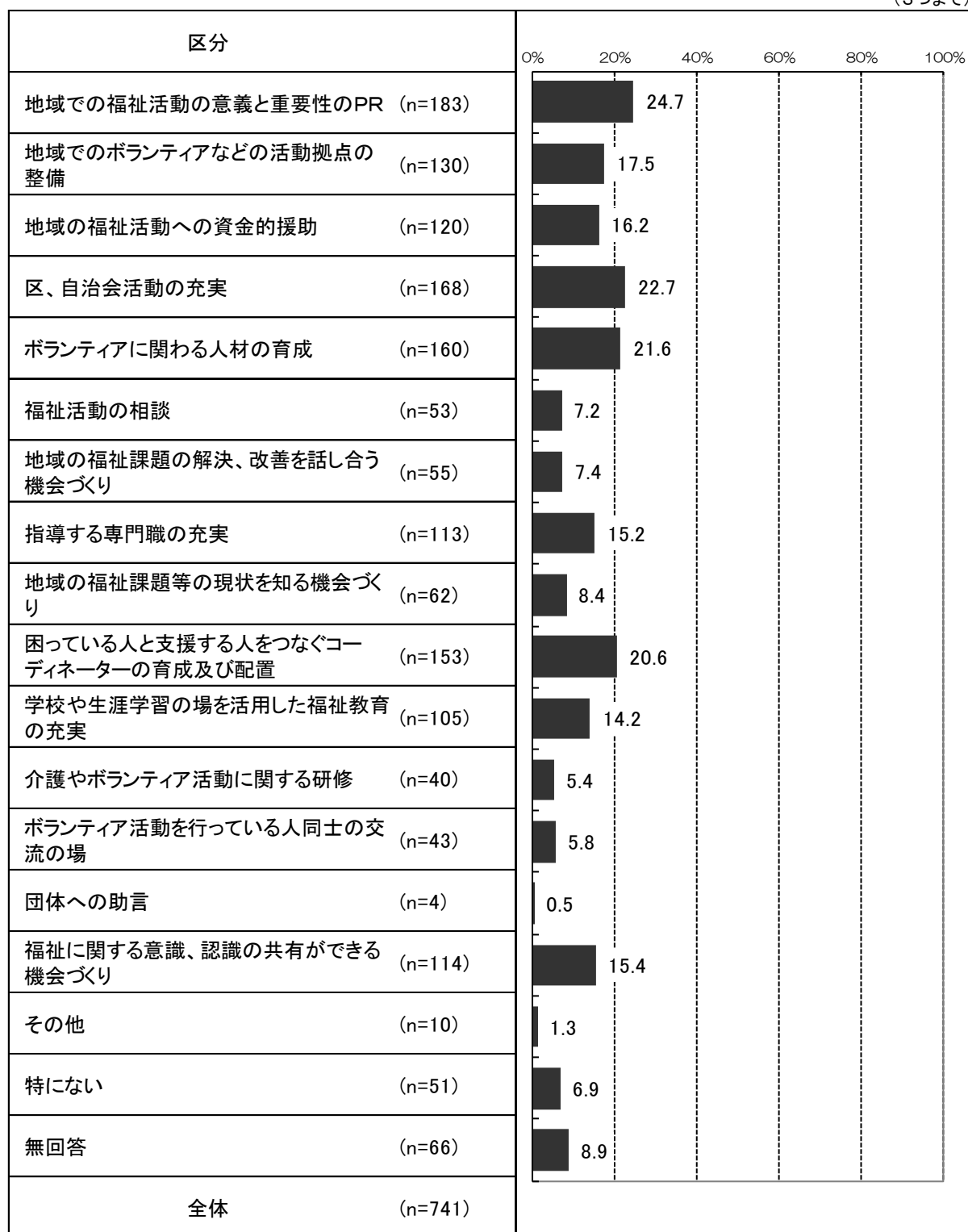
	回答数	安否確認の声かけ	心配事などの相談相手	子どもの短時間預かり	外出時の付き添いや送迎	買い物の手伝い	家事の手伝い	ゴミ出しや庭の草刈りの支援	医療機関への通院の手伝い	病気のときの声かけ	介助を必要とする人の短時間預かり	災害時の手助け	日常的な話し相手	福祉サービスや相談機関等への紹介	その他	特にない	無回答
全体	741	52.1	24.3	8.6	9.7	21.1	7.3	13.0	8.4	19.8	1.2	25.6	22.9	7.8	1.1	5.7	4.6
20代	63	33.3	30.2	14.3	9.5	19.0	4.8	11.1	4.8	12.7	4.8	38.1	20.6	6.3	3.2	7.9	0.0
30代	95	50.5	29.5	18.9	13.7	27.4	7.4	10.5	6.3	13.7	0.0	30.5	20.0	10.5	1.1	3.2	1.1
40代	92	63.0	20.7	14.1	6.5	20.7	5.4	16.3	2.2	18.5	0.0	22.8	18.5	6.5	0.0	6.5	4.3
50代	109	55.0	22.0	8.3	4.6	26.6	5.5	11.0	10.1	16.5	0.9	34.9	21.1	7.3	0.0	6.4	1.8
60代	166	61.4	22.3	3.6	15.1	24.7	11.4	18.7	11.4	21.1	0.0	30.1	22.9	7.8	1.8	1.8	1.8
70代	145	51.7	26.2	4.8	9.0	16.6	6.9	9.7	11.0	26.9	3.4	14.5	26.9	9.0	0.7	4.8	9.0
80代以上	60	30.0	23.3	3.3	6.7	6.7	6.7	11.7	6.7	25.0	0.0	10.0	33.3	5.0	1.7	15.0	11.7



(12) 地域において支え合い、助け合いを活発にするために重要なこと

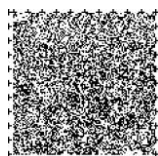
- 「地域での福祉活動の意義と重要性のPR」が 24.7%で最も多く、「区、自治会活動の充実」(22.7%)と「ボランティアに関する人材の育成」(21.6%)が続いています。

(3つまで)



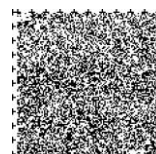
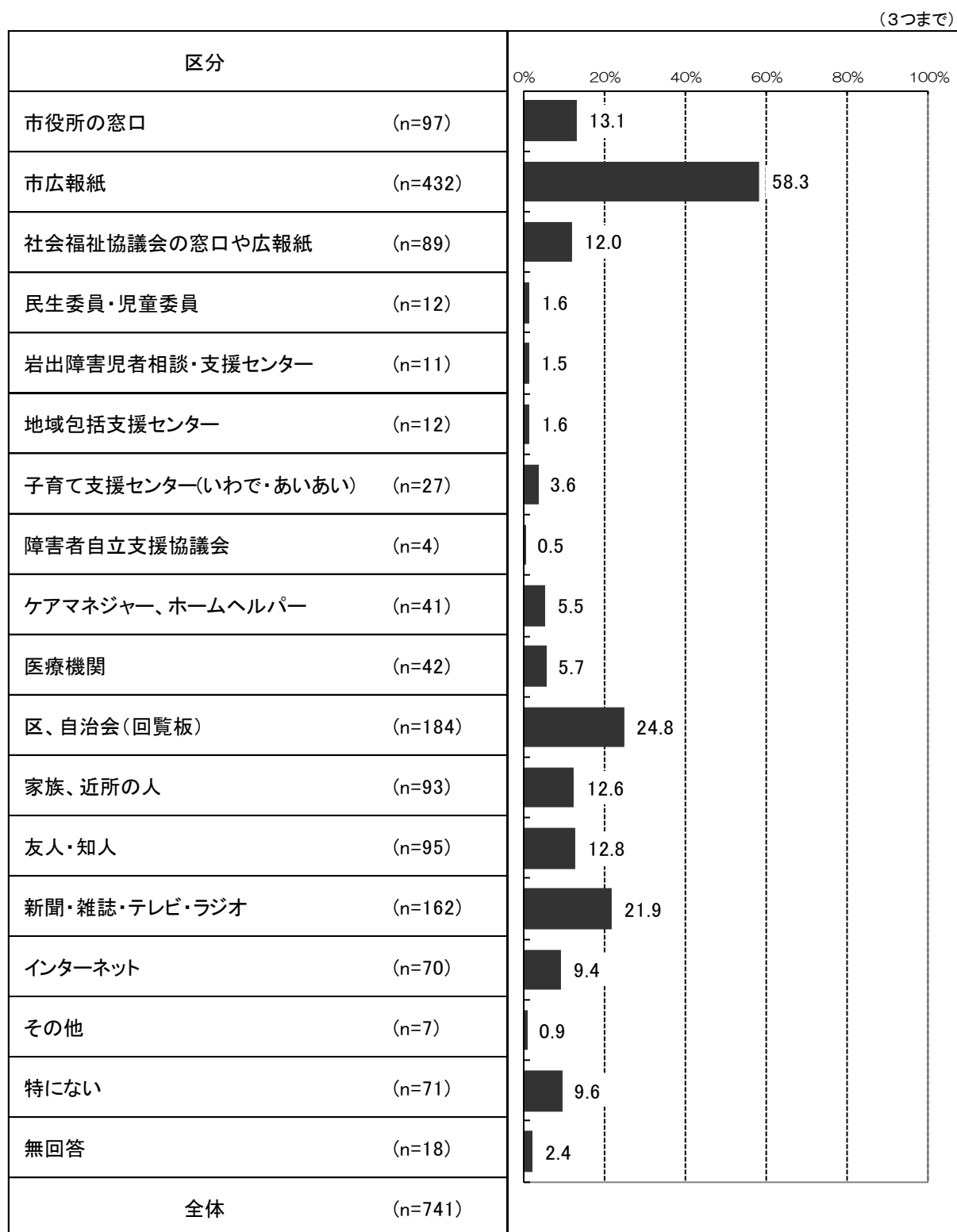
- 年代別にみると、60代以上で「区、自治会活動の充実」が最も多くなっています。なお、70代では「地域での福祉活動の意義と重要性のPR」、80代以上では「福祉に関する意識、認識の共有ができる機会づくり」も同位となっています。

	回答数	地域での福祉活動の意義と重要性のPR	地域でのボランティアなどの活動拠点の整備	地域の福祉活動への資金的援助	区、自治会活動の充実	ボランティアに関わる人材の育成	福祉活動の相談	地域での福祉課題の解決、改善を話し合う機会づくり	指導する専門職の充実	地域の福祉課題等の現状を知る機会づくり	困っている人と支援する人をつなぐコーディネーターの育成及び配置	学校や生涯学習の場を活用した福祉教育の充実	介護やボランティア活動に関する研修	ボランティア活動を行っている人同士の交流の場	団体への助言	福祉に関する意識、認識の共有ができる機会づくり	その他	特になし	無回答
全体	741	24.7	17.5	16.2	22.7	21.6	7.2	7.4	15.2	8.4	20.6	14.2	5.4	5.8	0.5	15.4	1.3	6.9	8.9
20代	63	25.4	15.9	15.9	12.7	19.0	7.9	4.8	19.0	12.7	25.4	20.6	4.8	12.7	0.0	17.5	1.6	4.8	3.2
30代	95	24.2	14.7	11.6	16.8	13.7	3.2	8.4	14.7	10.5	20.0	29.5	6.3	10.5	1.1	10.5	2.1	10.5	1.1
40代	92	25.0	20.7	23.9	18.5	32.6	9.8	5.4	15.2	7.6	22.8	14.1	2.2	2.2	1.1	13.0	2.2	5.4	2.2
50代	109	28.4	24.8	17.4	25.7	29.4	9.2	8.3	14.7	7.3	32.1	11.9	5.5	5.5	0.0	17.4	0.0	4.6	4.6
60代	166	25.3	18.1	20.5	27.7	25.9	7.2	8.4	14.5	8.4	19.9	11.4	7.2	5.4	0.0	18.1	1.2	6.0	7.8
70代	145	26.2	16.6	13.8	26.2	17.2	4.1	9.0	15.2	6.9	16.6	7.6	4.8	4.1	1.4	14.5	0.7	7.6	15.2
80代以上	60	15.0	10.0	5.0	18.3	6.7	8.3	5.0	13.3	6.7	6.7	10.0	6.7	3.3	0.0	18.3	3.3	8.3	31.7



(13) 情報入手先

- 「市広報紙」が58.3%で最も多く、「区、自治会（回覧板）」（24.8%）と「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」（21.9%）が続いています。

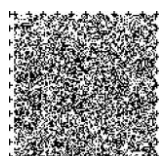
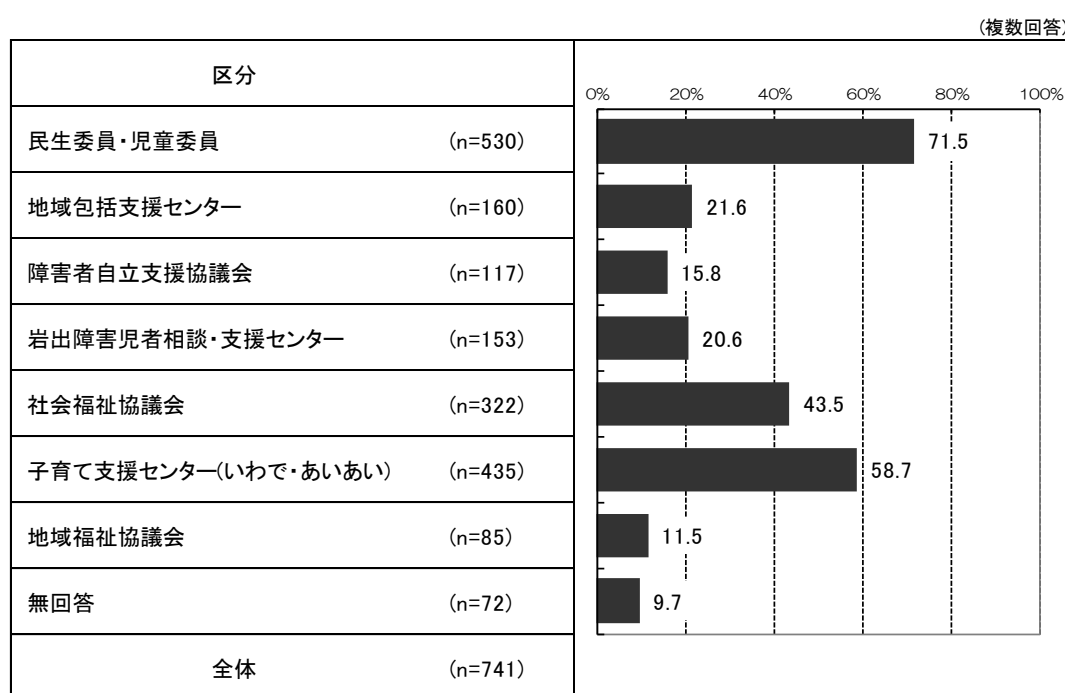


●年代別にみると、すべての年代で「市広報紙」が最も多くなっています。また、「家族、近所の人」について、20代が最も多く、3割を超えている状況です。

	回答数	市役所の窓口	市広報紙	社会福祉協議会の窓口や広報紙	民生委員・児童委員	岩出障害児者相談・支援センター	地域包括支援センター(*)	子育て支援センター(いわで・あいあい)	障害者自立支援協議会	ケアマネジャー、ホームヘルパー	医療機関	区、自治会(回覧板)	家族、近所の人	友人・知人	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	インターネット	その他	特にない	無回答
全体	741	13.1	58.3	12.0	1.6	1.5	1.6	3.6	0.5	5.5	5.7	24.8	12.6	12.8	21.9	9.4	0.9	9.6	2.4
20代	63	7.9	36.5	6.3	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	3.2	1.6	17.5	31.7	12.7	28.6	17.5	1.6	17.5	0.0
30代	95	10.5	58.9	8.4	0.0	2.1	0.0	15.8	1.1	3.2	6.3	12.6	12.6	15.8	9.5	13.7	2.1	10.5	1.1
40代	92	14.1	57.6	7.6	1.1	0.0	1.1	2.2	0.0	0.0	3.3	9.8	13.0	10.9	9.8	18.5	0.0	14.1	1.1
50代	109	17.4	63.3	11.9	0.9	4.6	0.9	2.8	0.0	4.6	3.7	25.7	8.3	14.7	22.0	12.8	1.8	8.3	0.0
60代	166	13.3	65.7	15.1	3.0	1.2	3.0	1.8	0.0	5.4	6.6	33.1	8.4	13.3	25.3	7.2	0.6	9.0	1.8
70代	145	13.1	62.1	17.2	3.4	1.4	1.4	0.7	1.4	4.8	6.2	33.1	13.1	11.0	29.7	2.1	0.0	5.5	4.1
80代以上	60	13.3	45.0	11.7	0.0	0.0	5.0	0.0	1.7	21.7	13.3	26.7	10.0	13.3	26.7	0.0	1.7	6.7	8.3

(14) 各種団体や機関の認知状況

●「民生委員・児童委員」が71.5%で最も多く、「子育て支援センター(いわで・あいあい)」(58.7%)と「社会福祉協議会」(43.5%)が続いています。

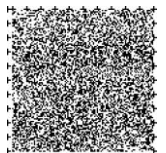
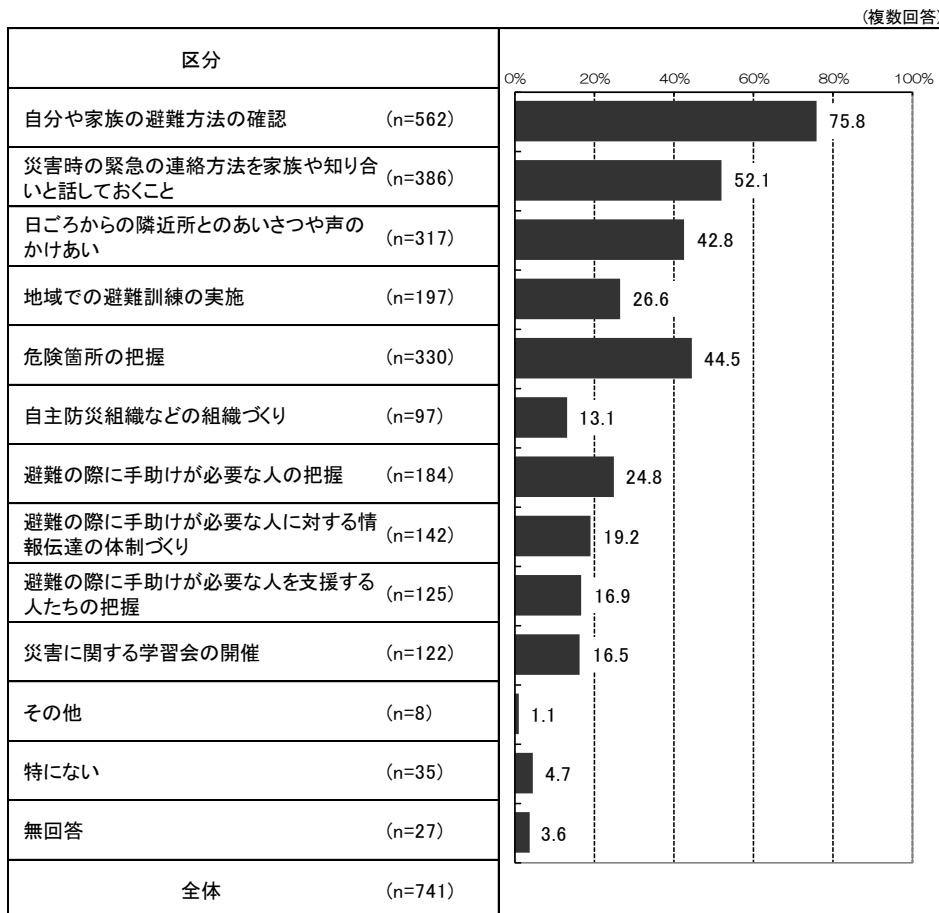


- 年代別にみると、20～40代では「子育て支援センター（いわで・あいあい）」、50代以上では「民生委員・児童委員」が最も多くなっています。

	回答数	民生委員・児童委員	地域包括支援センター	障害者自立支援協議会	岩出障害児者相談・支援センター	社会福祉協議会	子育て支援センター（いわで・あいあい）	地域福祉協議会	無回答
全体	741	71.5	21.6	15.8	20.6	43.5	58.7	11.5	9.7
20代	63	31.7	15.9	11.1	20.6	19.0	57.1	4.8	22.2
30代	95	56.8	23.2	15.8	26.3	37.9	82.1	12.6	6.3
40代	92	70.7	16.3	17.4	26.1	42.4	81.5	9.8	5.4
50代	109	74.3	25.7	12.8	18.3	46.8	64.2	10.1	7.3
60代	166	80.7	25.3	22.9	21.7	53.6	60.8	15.7	7.8
70代	145	86.2	18.6	14.5	19.3	48.3	35.9	11.0	9.0
80代以上	60	76.7	25.0	10.0	11.7	40.0	33.3	11.7	13.3

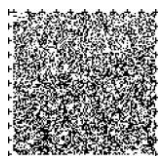
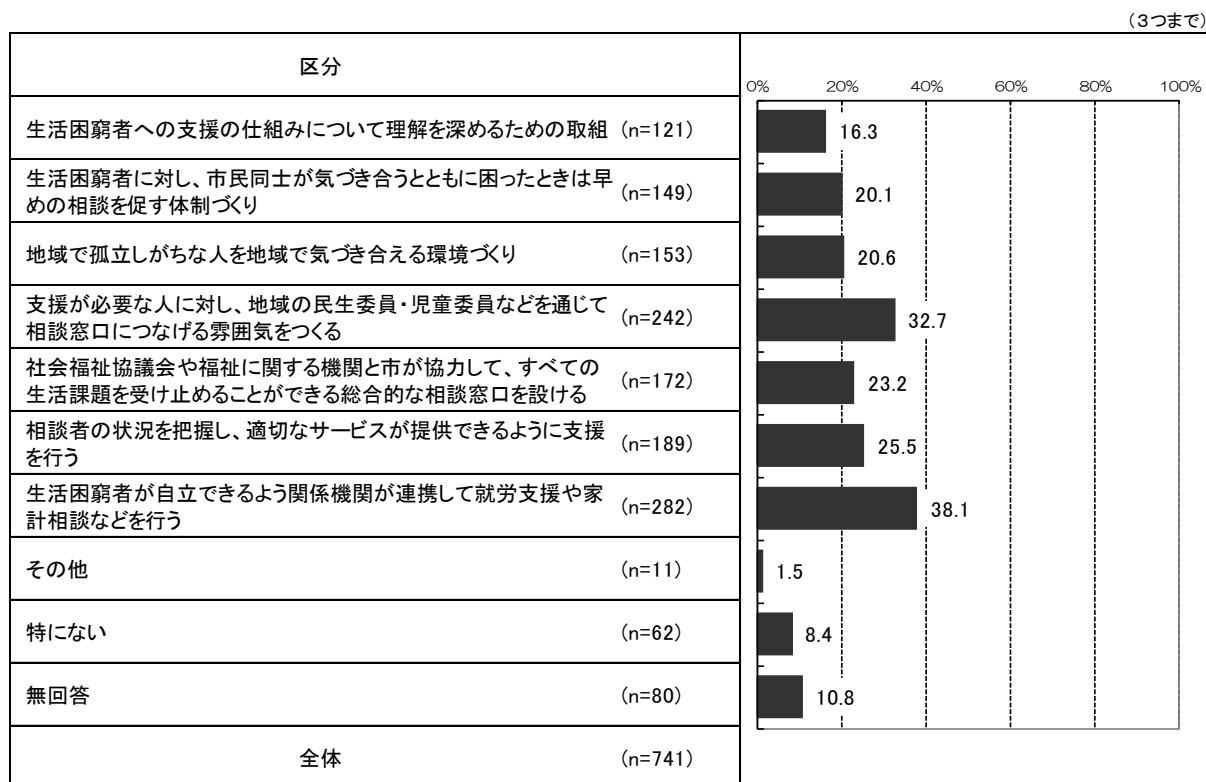
(15) 災害発生時の備えとして重要なこと

- 「自分や家族の避難方法の確認」が75.8%で最も多く、「災害時の緊急の連絡方法を家族や知り合いと話しておくこと」(52.1%)と「危険箇所の把握」(44.5%)が続いています。



(16) 生活困窮者に対する支援として今後期待する取組

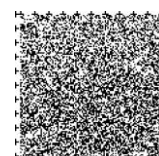
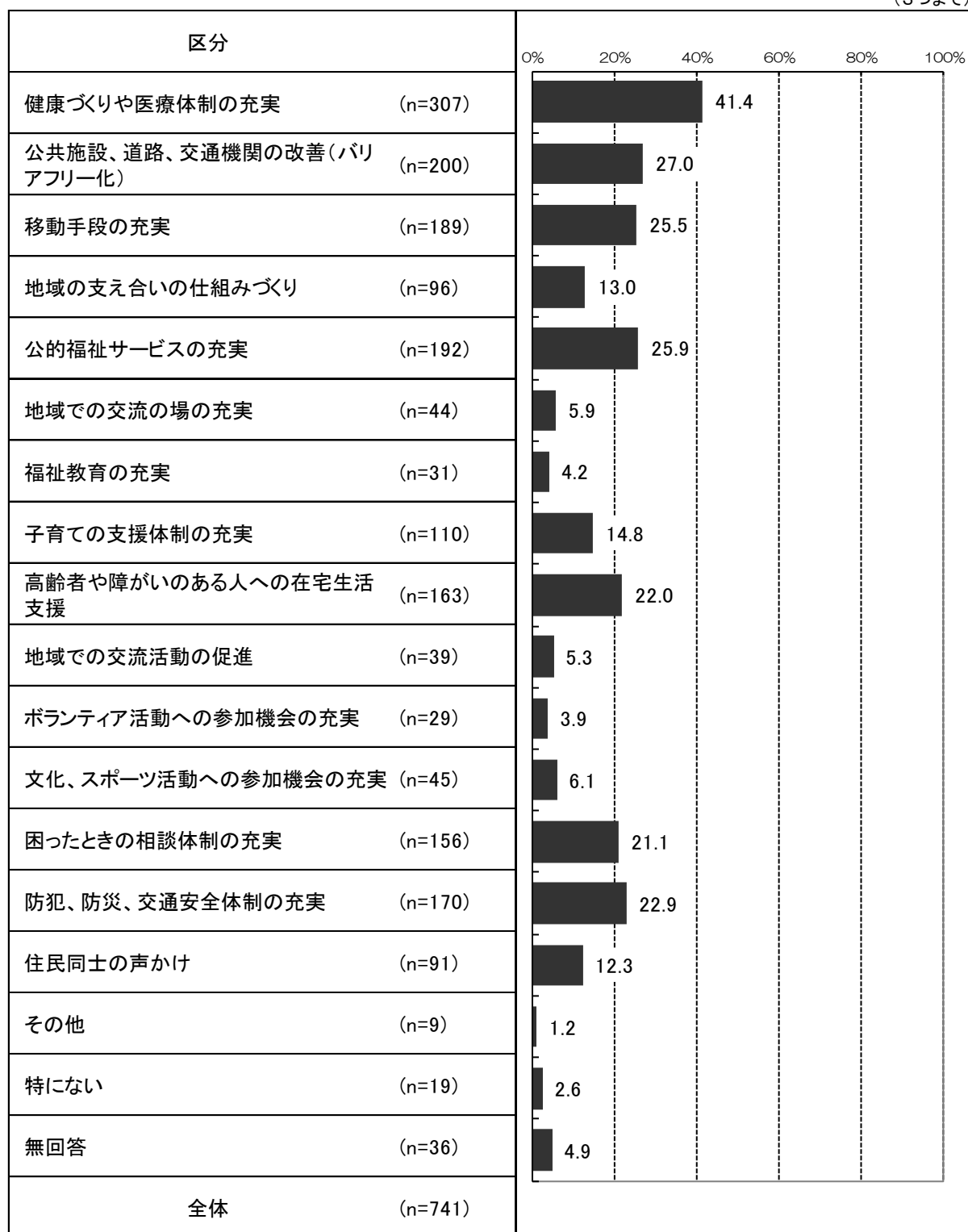
- 「生活困窮者が自立できるよう関係機関が連携して就労支援や家計相談などを行う」が38.1%で最も多く、「支援が必要な人に対し、地域の民生委員・児童委員などを通じて相談窓口につなげる雰囲気をつくる」(32.7%)と「相談者の状況を把握し、適切なサービスが提供できるように支援を行う」(25.5%)が続いています。



(17) 住み慣れた地域で、安心して暮らしていくために大切に思う福祉のあり方

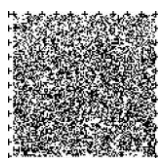
- 「健康づくりや医療体制の充実」が41.4%で最も多く、「公共施設、道路、交通機関の改善（バリアフリー^(*)化）」(27.0%)と「公的福祉サービスの充実」(25.9%)が続いています。

(3つまで)



●年代別にみると、20代・40代以上では「健康づくりや医療体制の充実」、30代では「子育ての支援体制の充実」が最も多くなっています。

	回答数	健康づくりや医療体制の充実	公共施設、道路、交通機関の改善 (バリアフリー化)	移動手段の充実	地域の支え合いの仕組みづくり	公的福祉サービスの充実	地域での交流の場の充実	福祉教育の充実	子育ての支援体制の充実	高齢者や障がいのある人への在宅生活 支援	地域での交流活動の促進	ボランティア活動への参加機会の充実	文化、スポーツ活動への参加機会の 充実	困ったときの相談体制の充実	防犯、防災、交通安全体制の充実	住民同士の声かけ	その他	特にない	無回答
全体	741	41.4	27.0	25.5	13.0	25.9	5.9	4.2	14.8	22.0	5.3	3.9	6.1	21.1	22.9	12.3	1.2	2.6	4.9
20代	63	36.5	31.7	33.3	6.3	19.0	3.2	6.3	25.4	15.9	1.6	3.2	11.1	19.0	28.6	7.9	1.6	1.6	3.2
30代	95	41.1	22.1	24.2	12.6	18.9	3.2	6.3	47.4	8.4	3.2	4.2	2.1	18.9	29.5	10.5	1.1	4.2	0.0
40代	92	41.3	35.9	31.5	13.0	23.9	5.4	3.3	19.6	15.2	5.4	2.2	7.6	26.1	29.3	6.5	0.0	2.2	1.1
50代	109	38.5	30.3	22.9	13.8	32.1	3.7	3.7	10.1	30.3	3.7	2.8	6.4	30.3	24.8	17.4	0.0	3.7	1.8
60代	166	44.6	24.7	27.7	13.3	36.1	7.8	5.4	7.8	27.7	6.6	3.6	6.0	19.9	19.9	14.5	2.4	0.6	2.4
70代	145	46.2	21.4	21.4	15.2	24.1	7.6	2.1	4.1	24.8	6.9	6.9	7.6	17.2	15.9	11.0	0.7	3.4	9.7
80代 以上	60	31.7	33.3	16.7	11.7	15.0	8.3	3.3	0.0	21.7	6.7	1.7	1.7	16.7	20.0	16.7	1.7	3.3	18.3



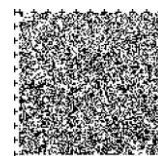
3 団体等への調査からみる状況

1) 目的

本計画を策定する際の基礎資料とするため、地域福祉の担い手である地域団体・組織を対象に、地域における福祉・生活課題等について、紙面によるヒアリング調査を実施しました。

2) 調査概要

調査対象	市内の地域団体・組織、NPO法人、社会福祉法人、 地域福祉計画策定委員
調査期間	平成27年6月19日～平成27年7月3日
調査方法	郵送による配布・回収
回収状況	配布数：37通、回収数：25通、回収率：67.6%
回答者（五十音順）	愛の子育てサークル BeBe 岩出市障害児者父母の会 岩出市身体障害者連盟 岩出市老人クラブ連合会 岩出市民生委員児童委員協議会 NPO法人愛ラップいわで NPO法人 fun-fun 親子リズム たんぽぽ 子育てサークルめだか組 社会福祉法人皆楽園 社会福祉法人紀の国福樹会 社会福祉法人社会福祉協議会 社会福祉法人しらゆり福祉会 社会福祉法人和歌山つくし会 ボランティア連絡協議会 地域福祉計画策定委員（清水ワイワイ・サロン、根来福祉委員会を含む）



3) 結果の概要

(1) 日頃の活動を通じて感じる、地域の福祉・生活課題

日頃の活動を通じて感じる、地域の福祉・生活課題について尋ねたところ、以下のような課題が複数の団体から挙がりました。

■コミュニティ形成の難しさ（特に新規転入者との関係づくりの難しさ）

- 転入者自身がマンションや団地ごとに自治会を形成せざるを得ない状況があり、つながりの希薄化に一層拍車をかけている
- 転入後、地域とのつながりを形成できないまま、市外への通勤を続け、地域とつながることができないまま、ひきこもってしまうケースが見られる
- 新しい自治会が設立され、連絡や通達がスムーズに行われていない現状が見られる
- 「地域への無関心」の加速

■個人意識が強い

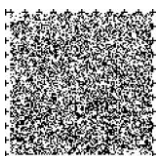
- 個人意識の加速
- 若い人（子ども～若者まで）の地域への関心が薄い
- 新たな住民意識が強くなっている

■交流・集う場づくり

- 子育ての不安・不満の解消、情報収集ができる、みんなが集まれるアットフォームな空間が必要
- 転勤などで引越してきた家族などのため、地域の間層、お年寄りの方々の活動を近くに感じられる場所が必要
- 障害のある人が交流したり、話したり、情報交換ができる場が必要
- ひきこもり者・児童（不登校児）が集うことができる場が必要
- 高齢者と若者の交流がないため、相互の理解がない

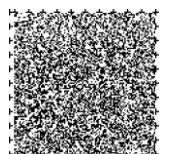
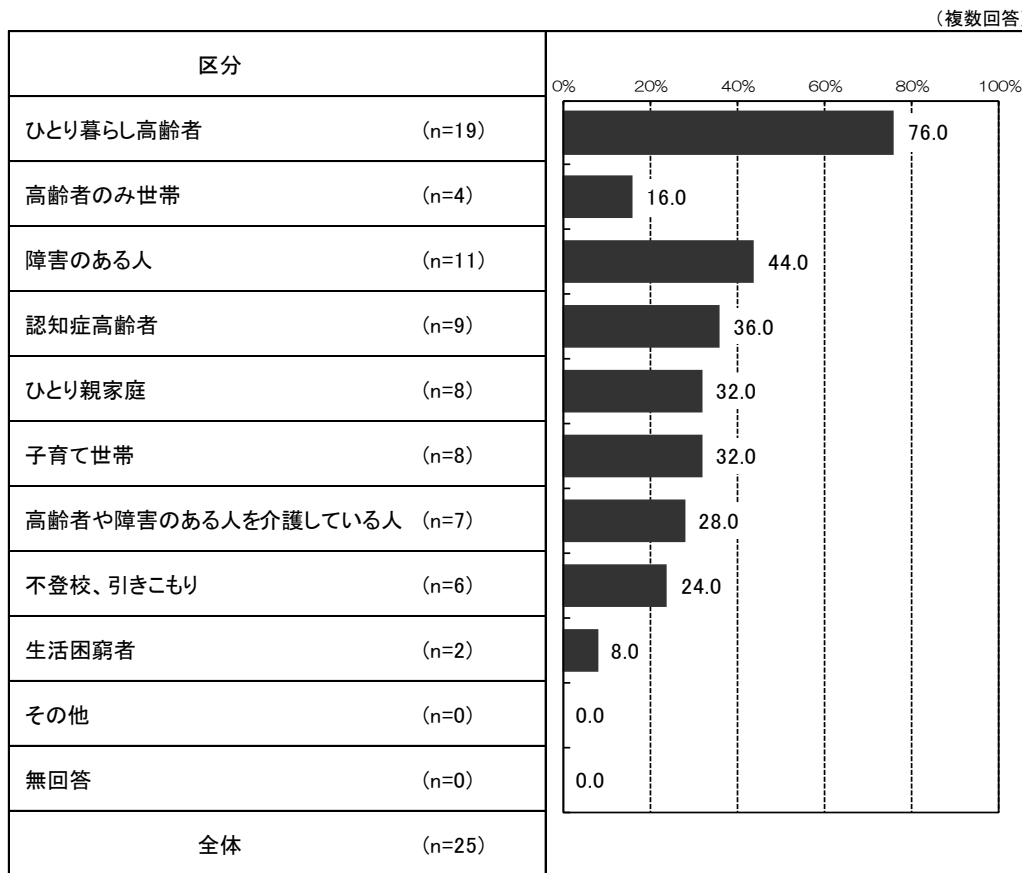
■孤立の存在

- 見守り活動を通じて、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の中に、周囲になじめず「社会的孤立」している人たちの存在が感じられる
- 生活困窮者（ひとり親、障害のある人、高齢者など）の孤立が見られる
- 他市町村から転入してきた人のなかで、高齢者のみ世帯やひとり暮らし世帯も多くなってきている。近所づきあいも少なく、ひきこもりの高齢者世帯が多くなってきている



(2) 今後、地域で特に支援が必要と思う人について

今後、地域で特に支援が必要と思う人について尋ねたところ、「ひとり暮らし高齢者」が76.0%で最も多く、「障害のある人」(44.0%)と「認知症高齢者」(36.0%)が続いています。



4 地域福祉ワークショップからみる状況

1) 目的

本計画を策定する際の基礎資料とするため、地域住民や地域福祉の担い手の方々に、地域福祉や地域福祉計画、岩出市における地域福祉を取り巻く現状等について知ってもらおうとともに、該当地区に関する現状（良いところや気になるところ）や課題、課題の解決に関するアイデアなどを整理していただく、地域福祉ワークショップを開催しました。

2) 実施概要

【参加者】

開催日	時間	開催地区	参加者数
① 7月 3日(金)	午後6時 30 分～ 午後8時 30 分	山崎地区公民館	22 人
② 7月 10日(金)		根来地区公民館	28 人
③ 7月 17日(金)		上岩出地区公民館	27 人
④ 7月 24日(金)		岩出地区公民館	28 人
		合計	105 人

【実施内容】

オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・開会のあいさつ ・地域福祉ワークショップの目的や進め方の説明
情報提供・勉強会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉や地域福祉計画についての説明 ・岩出市の地域福祉を取り巻く現状や課題などについての説明
グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、各地区の現状（良いところ、課題・気になるところ）についての意見交換 ・出た課題・気になるところを解決するためのアイデア出しと整理 ※参加者4グループ（A～D）に分かれて実施
グループ発表	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで検討した結果などを発表し、参加者全員と情報を共有
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉ワークショップの振り返り ・閉会のあいさつ



【山崎地区】



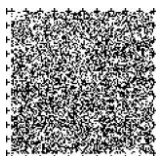
【根来地区】



【上岩出地区】



【岩出地区】



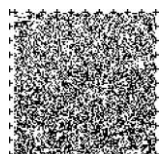
3) 地域福祉ワークショップで挙げた地域の良いところや課題と解決策・アイデア

地域福祉ワークショップの結果を踏まえて、多くの地区で挙げていた良いところ、地域福祉に関する課題と解決策・アイデアを中心に整理しました。

(1) 地域の良いところ、課題・気になるところ

4地区の特性を整理すると、「地域のつながり」「生活環境」「子ども」の項目で相反する意見が見られました。

地域の「良いところ」	地域の「課題」「気になるところ」
<p>◇<u>地域のつながり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをし合することができる ・近所の人との助け合いが見られる 	<p>◆<u>地域のつながり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住年数が異なる住民同士の交流が少ない ・あいさつが少ない ・近所との関わりが少ない ・行事への参加が少ない ・自治会に加入していない
<p>◇<u>生活環境</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物が便利 ・大阪や空港に近い 	<p>◆<u>生活環境</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物に困っている人がいる ・車がないとどこにも行けない
<p>◇<u>子ども</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが多い 	<p>◆<u>子ども</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが少ない ・子どもの遊び場がない ・通学路が未整備
<p>◇<u>自然環境</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然が豊か 	<p>◆<u>高齢者</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が多い ・ひとり暮らし高齢者が多い ・高齢者が集まれる場所がない ・空き家が増えている
	<p>◆<u>マナー</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通、(犬の)散歩、ゴミ出しに関するマナーが悪い
	<p>◆<u>防犯</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者が出る ・街灯が少ない



(2) 課題の解決策・アイデア

【住民一人ひとりができること(自助)】

- あいさつや声かけの実施・継続
- 他人に迷惑をかけないという意識をもつ
- 行事、イベントへの参加を呼びかける
- 乗り合わせて買い物に行く

【地域みんなのできること(互助・共助)】

- 居住年数が異なる住民同士が交流できるイベントの開催
- 学校等と連携を図りながら世代間交流の場・機会づくり
- サロンへの参加呼びかけとサロンづくり
- 地域課題等について話し合う場づくり
- 配達や移動販売、配食サービスの充実

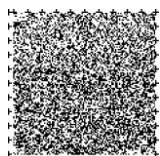
【行政が取り組むべきこと(公助)】

- 行政にしかできないこと
⇒公園や児童館の整備、コミュニティバスの本数・路線の拡大、歩道の整備、街灯の設置等
- 積極的な行政の取組
⇒交流の場の提供（公共施設等）、教室開催等

〔※各地区の結果については、資料編（87頁～96頁）を参照ください。〕



【発表の風景】



5 子育て支援センター利用者への調査からみる状況

1) 目的

地域福祉ワークショップの参加者は、4地区ともに60代・70代が中心でしたが、「子ども・子育て」に関する課題が出ました。

当事者である子育て世代の方々の生の声を計画策定に反映するため、子育て支援センター運動会を利用し、子育て支援センターの利用者の方が日頃の地域生活で感じている福祉・生活課題等を把握するグループヒアリングを実施するとともに、運動会の休憩時間を利用してアンケート調査を実施しました。

2) 実施概要

調査対象	①グループヒアリング：子育て支援センター運動会参加者5名（全員女性） ②アンケート調査：子育て支援センター運動会参加者25名
調査期間	①平成27年9月4日 11時55分～12時50分
調査場所	市民総合体育館 アリーナ

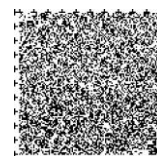
3) 結果の概要

(1) 近所づきあい、地域の人との交流について

- 同じ年代の子どもと関わりを持ちたい
- 同じ年代の子どもが周り（地域）にはいないため、子育て支援センターや保育所などの園庭開放、イベント等以外で子どもや親同士が交流することは難しい
- 近所とのつきあいはあいさつ程度
- 若い人の中には「近所づきあいをあまりしたくない」ときっぱり言い、自治会に入らない人もいる

(2) 子育ての悩みや不安の解消、情報収集について

- 子ども同士が交流できる場とともに、親同士が悩みを分かち合ったり、情報交換できる場づくりが必要
- 子育て世代が参加できるような講座が必要（昼間の時間帯での開催や託児が必要）
- 親の友だち・仲間づくりを目的とした講座等の開催が必要
- 気軽に相談できる相談窓口の設置が必要
- 広報紙を中心に、情報を見逃さないような発信の工夫が必要
- 情報をどこで入手したらいいのかわからない



6 本市を取り巻く現状と課題

※○：統計データより、●：市民意識調査より、■：団体等への調査より、◆：地域福祉ワークショップより、▲：子育て支援センター利用者への調査より

◇人口◇

- 高齢者人口（65歳以上）が増加傾向
- 平成26年9月末現在、高齢化率は19.2%（和歌山県：30.5%、全国：26.0%）

⇒和歌山県、全国に比べて高齢化率は低いものの、着実に高齢者が増加
⇒高齢者のニーズを把握し、必要な仕組みづくりを検討していくことが必要

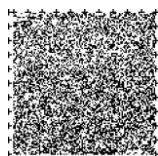
- 世帯数は各年で増加
- 1世帯あたり人数が減少し、2.67人（平成22年10月1日現在）
- 高齢者ひとり暮らし世帯、高齢者夫婦のみ世帯の増加

⇒家族単位で支え合う力・助け合う力が減少

◇要援護者◇

- 要支援・要介護認定者の増加
- 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の所持者がそれぞれ増加
- 生活保護受給者世帯の増加
- 既存サービス（介護保険制度など）から抜け落ちてしまうケースへのフォローが必要

⇒地域の中で支え合い・助け合いを必要とする人が増加



◇福祉への関心◇

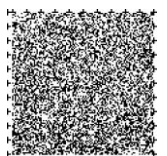
- 福祉について関心がある人（「とても関心がある」と「やや関心がある」の合計）は82.9%
- 20代は、他の年代に比べて福祉への関心がない人（「あまり関心がない」と「まったく関心がない」の合計）が35.0%で多い
- 関心がある福祉分野は、「高齢者に関する福祉」、「子どもに関する福祉」、「障害のある人に関する福祉」の順で多い
- 市民が福祉について理解を深める方法として「福祉の制度、サービス等について学ぶこと」が48.2%で1位
- 市民が福祉について理解を深める方法として「地域の福祉の課題等について市民が知ることができる機会をつくること」が2位

⇒地域住民一人ひとりが当事者意識を持ち、福祉の理念について理解を深め、主体的に福祉活動に関わっていく仕組みづくりが必要
⇒特に、若い年代の人が福祉や地域に対して興味・関心を持つきっかけづくりが必要

◇地域コミュニティ◇

- ◆転入者が多く、転入者自身でマンションや団地ごとに自治会を形成し、地域の希薄化が加速（46大字区に390の自治会等）
- 転入後、地域とのつながりを形成できないまま、ひきこもってしまうケースが見られる
- ◆近所とのふれあいが少なくなった
- ◆転入者との交流が少ない
- ◆声かけ、あいさつが少ない
- ▲若い人の中には、あまり近所づきあいをしたくないために自治会に加入しない人がいる
- ◆自治会加入者の高齢化
- 「個人意識の一般化」の加速
- 住み慣れた地域で、安心して暮らしていくために、どのような福祉のあり方が大切だと思うかについて、「地域の支え合いの仕組みづくり」が1割程度であり、特に20代で非常に低い
- 近所付き合いで「ほとんど付き合いがない」人は全体で6.5%であるものの、20代では19.0%
- 地域における支え合い、助け合いを活発にするために重要な取組として、「区、自治会活動の充実」が2位

⇒地域全体で支え合い、助け合いに対する関心を高め、お互いを思いやることを育んでいくことが必要
⇒そのため、地域住民がお互いに協力して、地域課題に取り組んでいけるよう支援体制を構築していくことが必要
⇒若い世代をはじめ、転入者等の自治会への加入を促進するための仕組みづくりが必要
⇒既存の自治会等や新設された自治会の相互間の連携体制を強化していくことが必要



◇孤立◇

- 見守り活動で見られる「社会的孤立」の存在
- 生活困窮者（ひとり親、障害のある人、高齢者など）の孤立
- 近所付き合いにおいて、20代の「ほとんど付き合いがない」人が19.0%
- ◆「無縁化^(*)」の加速

⇒ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯、障害のある人、子育て家庭、生活困窮者等が地域で孤立しないための取組が大切

⇒そのため、自治会等や民生委員・児童委員をはじめ、民間事業者等と連携を図りながら、地域の実情に応じた重層的な見守り体制の構築が必要

◇交流・集う場◇

- 市民が福祉について理解を深める方法として「小中学生が授業の一部として高齢者や障害者施設等を訪問することや交流する機会をつくること」が3位
- 障害のある人同士が交流したり、話しをしたり、情報交換できる場が必要
- ▲同じ年代の子どもが地域にいないため、子どもや親同士で交流することができない
- ▲親同士が不安や悩みを分かち合い、情報交換できる場が必要
- 転入者が地域の中年層、お年寄りの方々の活動を近くに感じられる場所が必要
- ひきこもりの児童（不登校児）、成人が集うことができる場所が必要

⇒地域住民一人ひとりが地域と関わり、交流・集うことができる機会や場、仕組みづくりを積極的に進めていくことが必要

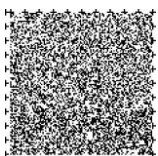
⇒交流を通じて、日頃から地域において「顔の見える関係」を構築していくことが必要

◇社会参加◇

- 地域活動やボランティア活動に参加している人は、3割程度で、年齢が下がるにつれて低い
- 地域活動やボランティア活動など助け合い活動を活性化させるために必要なこととして、「若い世代の参加」が25.9%で3位
- ◆参加意識が薄い
- ◆行事への参加が少ない
- ◆若い人（働き盛りの人）の参加が少ない
- ◆ボランティア活動への男性の参加が少ないと感じる

⇒地域活動やボランティア活動、地域の行事などへの参加を促進するための支援が必要

⇒特に、若い世代や男性の参加を促進していくためのきっかけづくりが必要



◇移動手段◇

- ◆公共交通機関が不便（バスなど）
- ◆車がないと生活できない
- ◆安全のインフラ対策（道路等）が必要
- 交通手段がないため、サロンの参加者が限定されてしまう

⇒社会参加の機会が多くの人に開かれるよう、安全で円滑な移動手段の確保が必要

⇒地域で安心した生活を送ることができるよう、自力での移動がしにくい人への移動手段の充実を図ることが必要

◇地域福祉の担い手◇

- 担い手不足
- 民生委員・児童委員の高齢化及び後任者の確保が困難
- 主婦層が「地域」から「職場」へ活動の場を広げており、ボランティアの確保が困難
- 地域における支え合い、助け合いを活発にするために重要な取組として、「ボランティアに関わる人材の育成」が3位、「困っている人と支援する人をつなぐコーディネーターの育成及び配置」が4位

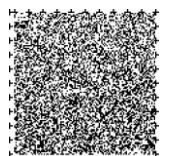
⇒地域活動の推進に向けて、地域福祉の担い手の発掘・育成・確保や活動団体間の連携等を計画的に進めていくことが必要

⇒地域福祉を積極的に展開することが期待される地域のリーダーやコーディネーターの育成を進めていくことが必要

◇地域福祉活動への支援◇

- 地域活動やボランティア活動など助け合い活動を活性化するために必要なこととして、「気軽に相談できる窓口の設置」が1位
- 地域活動やボランティア活動など助け合い活動を活性化するために必要なこととして、「活動の拠点や場所の整備」が4位
- 活動できる場所が少ない

⇒既存施設の有効活用などによる活動拠点の整備や移動手段の確保等、行政にしかできない地域福祉を推進していくための環境づくりを進めていくことが必要



◇情報発信・提供、情報共有◇

- 地域活動やボランティア活動に参加しない理由として、20・30代、50・60代で「どのような活動があるか知らない」が3～4割台で他の年代と比べて多い
- 地域活動やボランティア活動など助け合い活動を活性化するために必要なこととして、「活動に関する情報の発信」が2位
- 民生委員・児童委員の認知状況をみると、全体で7割の人が知っているものの、年代が下がるにつれて、認知度が低い
- 社会福祉協議会の認知状況をみると、4割程度の人が知っていると回答し、特に、20代で認知度が低い

⇒地域住民に対して、地域で活動する様々な団体・組織等に関する周知・情報提供を行い、地域福祉活動の理解・参加促進を図ることが必要

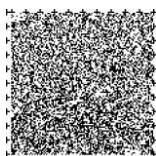
⇒地域住民や地域福祉の活動団体・担い手等の様々な状況やニーズを十分に踏まえ、情報発信・提供と情報共有の仕組みをより効果的なものにする必要がある

◇防犯・防災◇

- 身近な地域で、地域住民が取り組むべき課題や問題点として、「防犯・防災の地域の安全対策」がいずれの年代も多い
- 地域で安心して暮らしていくために、地域にある組織や団体に対して期待する活動として「交通安全や防犯、防災などの活動」がいずれの年代も多い
- 災害発生時の備えとして、「自分や家族の避難方法の確認」が最も多い
- ◆災害時の避難所に関する問題
- ◆犯罪が多くなってきた
- ◆不審者の出没

⇒地域ぐるみの広範な自主防災・防犯活動を推進するため、広報媒体等を活用した啓発活動に取り組むとともに、地域における防災・防犯体制の構築が必要

⇒自ら避難することが困難な災害時要援護者^(*)に対する適切な避難支援ができるよう、日頃から地域における支援体制の構築が必要



◇生活環境◇

- ◆空き家の増加
- ◆ゴミ問題（川、公園、池など）
- ◆ゴミ出しのマナーが守られていない
- ◆犬の散歩のマナーが守られていない
- ◆自転車マナーが守られていない

⇒地域で安全安心な生活を送ることができるよう、マナーの啓発を図り、一人ひとりの意識向上を図ることが必要

⇒地域福祉活動の展開に向け、空き家の活用を検討していくことが必要

